

平成25年度
未来をひらく子どもワークショップ
報告書

平成25年8月
奈良市子ども未来部子ども政策課

目 次

第1章 開催概要	1
1 要旨	1
2 ワークショップ等開催状況	1
3 ファシリテーター	1
4 ワークショップ参加者	2
5 サポーター及びサポーター養成講座	3
6 ワークショッププログラム	6
7 ワークショップの様子	10
8 市長からのメッセージ	15
第2章 私たちがつくる子ども条例10箇条	16
1 1班	16
2 2班	18
3 3班	20
4 子どもたちのその他の意見	23
第3章 振り返りシート	29
1 子どもたちの振り返り	29
2 サポーターの振り返り	34
第4章 奈良市子ども条例検討委員との意見交換	37
1 A班	37
2 B班	49
3 全体	61

第1章 開催概要

1 要旨

子ども条例の制定に向け、その内容を検討するに当たり、子どもたちの意見や思いを「私たちがつくる子ども条例10箇条」として提案してもらうために、夏休み期間に5回のワークショップを開催しました。

そして、5回のワークショップの成果を取りまとめ、奈良市子ども条例検討委員会において、参加者の子どもたち10人と条例検討委員による意見交換を行いました。

2 ワークショップ等開催状況

(1) 開催日、テーマ及び参加人数

回	開催日	テーマ	参加人数
第1回	平成25年 8月 1日(木)	仲間と出会い、奈良を見つめる	8人
第2回	平成25年 8月 5日(月)	私たちの声を届けよう！(1)	12人
第3回	平成25年 8月 7日(水)	私たちの声を届けよう！(2)	11人
第4回	平成25年 8月19日(月)	私たちの声を聞いてもらおう！	15人
第5回	平成25年 8月21日(水)	私たちがつくる子ども条例10箇条	14人
—	平成25年 8月23日(金)	奈良市子ども条例検討委員との意見交換	10人

(2) 開催時間及び場所

- ・開催時間 午前10時から午前12時まで

(※奈良市子ども条例検討委員との意見交換のみ午後1時から午後2時30分まで)

- ・開催場所 奈良市役所 会議室

3 ファシリテーター

シチズンシップ共育企画 代表 川中 大輔 氏

4 ワークショップ参加者

奈良市内に在住する10歳から17歳の子どもを対象に、公募等により募集し16名の子どもたちが参加しました。

班	氏名	性別	学校名	学年	氏名	性別	学校名	学年
1	おだ てつや 小田 哲也	男	済美小学校	5年	にしおか こほる 西岡 小晴	女	都跡小学校	5年
	にしだ あきら 西田 旭良	男	富雄北小学校	5年	のつき かなみ 野付 花和実	女	都跡小学校	5年
	やまだ ななほ 山田 菜々穂	女	都跡小学校	5年				
2	うえだ みほ 上田 美穂	女	飛鳥中学校	2年	よしおか ともみ 吉岡 朋美	女	登美ヶ丘 中学校	2年
	まつやま まほろ 松山 まほろ	女	登美ヶ丘 中学校	2年	まつたに みな 松谷 実奈	女	伏見中学校	2年
	むかい にじと 向井 虹渡	男	登美ヶ丘 中学校	2年				
3	いなだ ゆうき 稲田 悠希	男	飛鳥中学校	2年	なりおか そう 成岡 壮	男	登美ヶ丘 中学校	2年
	おおたに ゆう 大谷 結生	女	飛鳥中学校	2年	もりやま かずき 森山 和貴	男	登美ヶ丘 中学校	2年
	ふじい ともみ 藤井 朋美	女	富雄中学校	2年	いいた ももか 飯田 百佳	女	伏見中学校	2年

5 サポーター及びサポーター養成講座

(1) サポーター

奈良市内に在住又は在学している18歳以上の方を対象に、公募等により募集し10名の大学生等が参加しました。

番号	氏名	性別	大学・勤務先	回生
1	すだ こうきち 須田 紘吉	男	富雄第三中学校 非常勤	—
2	とくなが けいすけ 徳永 圭佑	男	奈良教育大学	2
3	まつだ だいき 松田 大樹	男	奈良教育大学	科目等 履修生
4	くるまい かな 車井 佳奈	女	関西女子短期大学	1
5	いのうえ しゅうた 井ノ上 翔太	男	天理大学	1
6	しまだ あきお 嶋田 明夫	男	天理大学	1
7	もとはら ゆうき 元原 悠貴	男	シチズンシップ 共育企画	—
8	ふかたに けいすけ 深谷 啓介	男	シチズンシップ 共育企画	—
9	たきもと しんや 瀧本 真也	男	シチズンシップ 共育企画	—
10	のだ けんたろう 野田 憲太郎	男	シチズンシップ 共育企画	—

(2) サポーター養成講座

① 趣 旨

サポーター応募者を対象に、ワークショップの運営補助等を効果的に行うにあたり必要な知識や技量を身につけてもらうためにサポーター養成講座を開催しました。

② 日 時

平成25年7月28日（日）午前9時から午後4時まで

③ 場 所

奈良市役所 倉庫棟 第2北会議室・第4北会議室

④ 講 師

シチズンシップ共育企画 代表 川中 大輔 氏

⑤ 参加者

サポーター7名

⑥ プログラム

〈会場設営〉椅子のみ丸座からスタート

- ・ 9:00 オープニング
 - 開会あいさつ（奈良市）
 - 本事業の説明
- ・ 9:10 オリエンテーション
 - 講師自己紹介
 - プログラムのねらいと流れの共有
 - グラドルールの共有
- ・ 9:20 セッション1「お互いを知ろう！」
 - アクティビティ「Zen Mind」
 - 自己紹介（A3用紙で4つの窓）
 - (1) こう見えて、私〇〇なんです。
 - (2) 私がこのサポーターになったのは…
 - (3) 私が中学生だった頃「〇〇だったらいいな」と思っていたことは…
 - (4) サポートするから連想される言葉は…
- ・ 10:00 セッション2「サポートするとは？」
 - 小講義「支援する、ということ」
 - 支援とは？
 - 今回のサポーターの役割
 - 支援スタイルの幅
 - 支援することと「聴く」ということ
- ・ 10:15 休憩
- ・ 10:25 セッション3「自らのスタイルに気づこう！」
 - 実習「いろいろな聴きかた」
 - 2人一組
 - 小講義「聴く、ということ」
- ・ 12:00 昼食休憩
- ・ 13:00 セッション4「実際にサポートしてみよう！」
 - 実習「はなす・きく・みる」
 - 3～4人話し手、1人聴き手、1人観察役

—1 ラウンド30分（実習15分+振り返りシート記入5分+分かち合い10分）×4回

—補足講義「活動をどう観察し、どう記録するか？」

- 15:10 小講義『『子どもの人権』とは？』
 - そもそも「権利」とは何か？
 - 子どもの権利条約と「子どもにやさしいまち」
 - 日本における「子どもの権利」を巡る課題
- 15:20 セッション5「学びから実践へ」
 - 今日のワークショップを通じて感じたことや気づいたこと、考えたことは？
 - この学びをワークショップでのサポートにあたって、どう活かしていくか？
 - 全体フリップディスカッション
- 15:50 クロージング
 - 講師からのラストメッセージ
 - 閉会あいさつ（奈良市）
- 16:00 終了

⑦ 様子

• 事業説明



• セッション「お互いを知ろう！」



• セッション「実際にサポートしてみよう！」



• セッション「学びから実践へ」



6 ワークショッププログラム

(1) 第1回「仲間と出会い、奈良を見つめる」

〈会場設営〉椅子のみで半円形からスタート

- 10:00 オープニング
 - －開会あいさつ（奈良市）
 - －事務アナウンス
- 10:10 オリエンテーション
 - －ファシリテーター自己紹介
 - －ワークショップ全体のねらいと今日の流れの共有
 - －グラドルールの共有
 - (1) 思ったことは声に出していい
 - (2) お互いに聴きあい、反応を返そう
 - (3) 質問は歓迎！
 - (4) 関われる範囲や言いたい範囲で参加していい
- 10:20 セッション1「仲間と出会おう」
 - －全体で円形になり、アクティビティ「電線ゲーム」
 - －グループに別れて自己紹介（「4つの窓」）
 - 〈項目例〉呼んで欲しいニックネームは…、いまの気持ちは…、私が最近ハマっていることは…、このワークショップに申し込んだのは…
 - －フリップディスカッション（「いい話し合い」とは…、このワークショップが「いい話し合い」になるには…、一人ひとりが大切にすることは…）
- 11:10 休憩
- 11:20 セッション2「奈良を見つめよう」
 - －クイックチェック「奈良は『子どもにやさしいまち』と思うか？」
 - －「どうしてそう思うのか？」をグループ内で聴きあう
 - －小講義「子ども条例とは？」（そのねらいも含めて）
 - －これからの話し合いの流れを共有
- 11:45 ふりかえり
 - －今日のワークショップを通じて感じたことや気づいたこと、考えたことは？
 - －フリップディスカッション形式でグループ内共有する（フリップは回収）
- 11:55 プログラムチェックアウト
 - －今回のまとめと次回に向けて
- 12:00 1回目終了

(2) 第2回「私たちの声を届けよう！(1)」

〈会場設営〉アイランド形式(グループごとに着席)

- ・10:00 プログラムチェックイン
 - ー前回のおさらいと今回の流れ
 - ーグラントルールの確認
 - ーウォームアップ
- ・10:20 セッション3「私たちが関わりたいこと！」
 - ー自分たちにとって「大事なこと」は？
 - ー個人作業後、模造紙上に発言を整理
 - ーどうしてそう思うのかを聴き合う
- ・11:00 休憩
- ・11:10 セッション4「私たちが伝えたいこと！」
 - ー(誰に)どのような意見を発信していきたいか？
 - ー個人作業後、グループ共有(KJ法)、全体共有(ポスターセッション形式)
- ・11:45 ふりかえり
 - ー今日のワークショップを通じて感じたことや気づいたこと、考えたことは？
 - ーフリップディスカッション形式でグループ内共有する(フリップは回収)
- ・11:55 プログラムチェックアウト
 - ー今回のまとめと次回に向けて
- ・12:00 2回目終了

(3) 第3回「私たちの声を届けよう！(2)」

〈会場設営〉アイランド形式(グループごとに着席)

- ・10:00 プログラムチェックイン
 - ー前回のおさらいと今回の流れ
 - ーグラントルールの確認
 - ーウォームアップ
- ・10:10 セッション5「私たちが望む話し合いの場」
 - ー安心して話し合う／しっかりと話し合うためにどのような環境が必要か？(KJ法)
- ・11:00 休憩
- ・11:10 セッション6「私たちが作り出す話し合いの場」
 - ーその環境を実現するために、「大人が取り組むこと」と「子どもが取り組むこと」
 - ーサポーターが聴いて書いて、共有していく
 - ー全体共有(ポスターセッション形式)

- ・ 11:45 ふりかえり
 - ー今日のワークショップを通じて感じたことや気づいたこと、考えたことは？
 - ーフリップディスカッション形式でグループ内共有する（フリップは回収）
- ・ 11:55 プログラムチェックアウト
 - ー今回のまとめと次回に向けて
- ・ 12:00 3回目終了

（４）第４回「私たちの声を聞いてもらおう！」

〈会場設営〉 アイランド形式（グループごとに着席）

- ・ 10:00 プログラムチェックイン
 - ー前回のおさらいと今回の流れ
 - ーグランドルールの確認
 - ーウォームアップ
- ・ 10:20 セッション7 「私たちが聞いて欲しいこと」
 - ークイックチェック「わたしのお悩み度」
 - ーどのような「悩み」や「困りごと」を持っているか？（KJ法）
- ・ 11:00 休憩
- ・ 11:10 セッション8 「私たちが望む相談の場」
 - ー相談するところ（相手や場所など）に求めることは？
 - ー普段は誰に相談している？（どうしてその人になっているの？）
 - ー相談する時に「どうしようか…」とためらうのは、どうしてか？
 - ーサポーターが聴いて書いて、共有していく
 - ー全体共有（ポスターセッション形式）
- ・ 11:45 ふりかえり
 - ー今日のワークショップを通じて感じたことや気づいたこと、考えたことは？
 - ーフリップディスカッション形式でグループ内共有する（フリップは回収）
- ・ 11:55 プログラムチェックアウト
 - ー今回のまとめと次回に向けて
- ・ 12:00 4回目終了

（５）第５回「私たちがつくる子ども条例10箇条」

〈会場設営〉 アイランド形式（グループごとに着席）

- ・ 10:00 プログラムチェックイン
 - ー前回のおさらいと今回の流れ
 - ーグランドルールの確認
- ・ 10:05 セッション9 「私たちがつくる子ども条例10箇条をまとめる」

- これまでのグループでの活動を発表資料にまとめる
- ポスターセッション形式で全体共有
- 11:00 休憩
- 11:10 セッション10「これまでの学びをふりかえる」
 - 5日間のワークショップを通じての自らの学びを確かめる
 - その学びの獲得の背景を確かめ合う
 - そうした気づきを明日からの暮らしでどう活かしていくか？
- 11:50 クロージング
 - ラストメッセージ
 - 閉会あいさつ（奈良市）
- 12:00 5回目終了

7 ワークショップの様子

(1) 第1回

① 開会あいさつ



② アクティビティ



③ フリップディスカッション



④ フリップディスカッション



⑤ フリップディスカッション



⑥ プログラムチェックアウト



(2) 第2回

① アクティビティ



② 市長からのメッセージ



③ フリップディスカッション



④ フリップディスカッション



⑤ フリップディスカッション



⑥ プログラムチェックアウト



(3) 第3回

① アクティビティ



② プログラムチェックイン



③ フリップディスカッション



④ フリップディスカッション



⑤ フリップディスカッション



⑥ プログラムチェックアウト



(4) 第4回

① アクティビティ



② プログラムチェックイン



③ フリップディスカッション



④ フリップディスカッション



⑤ フリップディスカッション



⑥ プログラムチェックアウト



(5) 第5回

① プログラムチェックイン



② これまでの意見をまとめる



③ 班ごとに発表（1班）



④ 班ごとに発表（2班）



⑤ 班ごとに発表（3班）



⑥ 振り返り



8 市長からのメッセージ（第2回ワークショップにて）

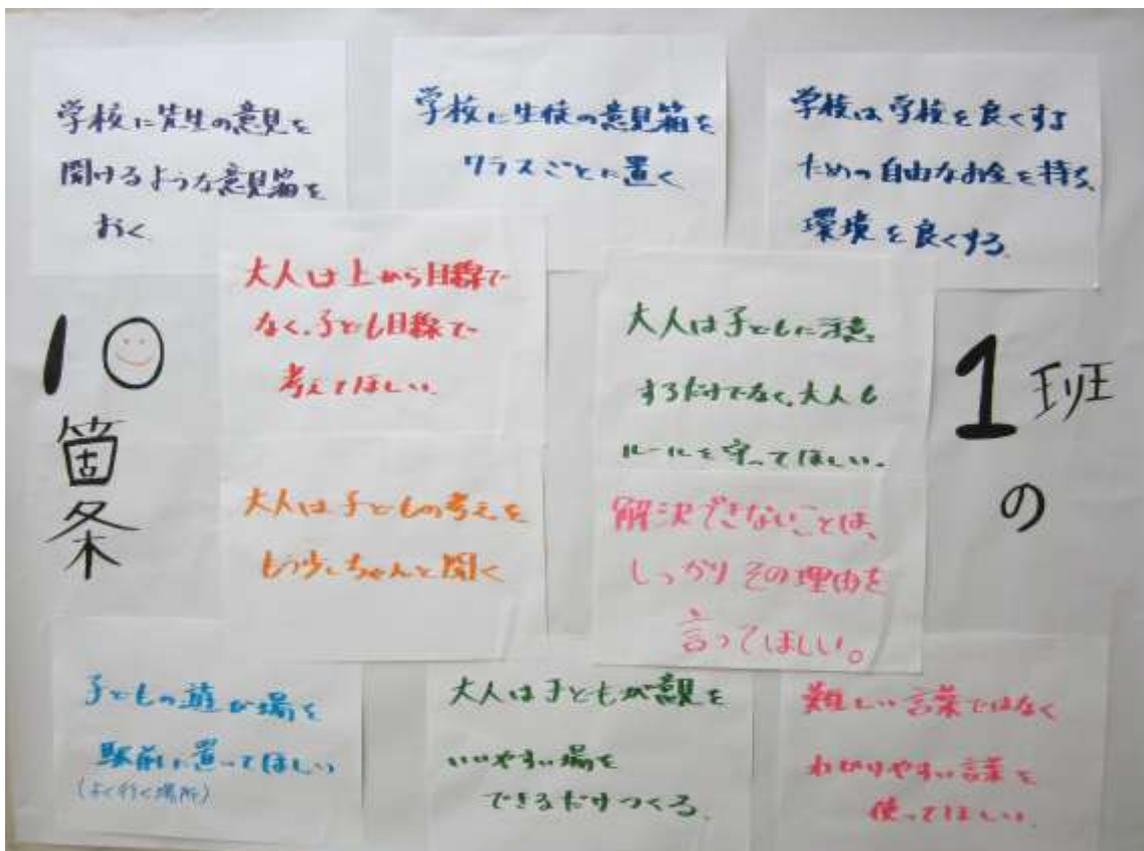
みなさん、こんにちは。今日は2回目ということで、みんなずいぶん慣れてきて、自分の考え方や思いをどんどん出してもらっていると思います。実は、このワークショップが今、いろんなところで噂になっています。私もいろんな所に行きますが、こういう新しい取り組みが始まっているということが、良い意味で噂になりつつあり、みんながどんな条例を作ってくれるのかということがたくさんの方が注目しています。だから、ぜひみんなで楽しく、いいアイデアをどんどん出してもらいたいと思います。この条例はまず、みんなのための条例である一方、他の子どもや、これから生まれてくる子どもたちのための条例でもあると思います。そういう意味で、これからどんどん広がっていくような夢のある、拡がりのあるワークショップなので、ぜひ頑張ってくださいと思います。この条例っていうのは、簡単にいうと法律のことです。法律ってみんな聞いたことあるよね。車でスピードを出しすぎたらお父さんが捕まるとか、世の中にはいろいろなルールがありますね。たくさん法律がある中で、奈良市の法律のことを条例って言います。その法律を今、みんなが作る作業をしてくれているというわけです。これはすごいことで、例えば、みんなの学校の校則で、この学校は制服ですとか、この学校は私服でいいですとかね、スカートは何センチまでとか、いろいろ細かいルールがあると思います。そういうルールって子どもが変えようと思っても、「いや、ルールだから従いなさい。」って話になるでしょう。みんなは家で何かルールはありますか。お風呂は誰が洗うとか。私の家だと、ごみは私が出します。そういう家の中のルールでも、一度決まったルールを変えるのはけっこう難しいよね。家の中のルールでもそうだから、奈良市全体の法律を作るのはハードルが高くて、今まではなかなか変えられなかったんですね。でも、みんなが、「こんなまちにしたいな」とか「子どももこんな意見を持っているよ」っていう意見を出してくれたことが、これからの奈良の法律になります。ですので、すごくやりがいのある仕事だし、歴史に名が残る仕事になると思いますので、ぜひ頑張ってください。「未来をひらく」ということが今回私たちの一番実現したいことです。奈良は古いまちだからこそ、次の未来をどんどん作りだしていく。そして、未来をどんどん作っていければ、それがまた長い歴史になっていきます。だから、みんながどんどん主役になって、こういう仕組みを作って、法律を作って、まちを作っていく。市役所の職員やコーディネーターの方々、また、委員の先生方もみんなで応援していきますので、ぜひ思いっきり、やってください。あとの責任は全部とりますから、もうこれ以上できないっていうくらい暴れまくってくれたら嬉しいなと思いますので、よろしくお願ひします。ありがとうございました。

第2章 私たちがつくる子ども条例10箇条

ワークショップで編成した3班が、それぞれ5回にわたるワークショップの成果を「私たちがつくる子ども条例10箇条」として提案しました。

1 1班

- 1 学校に先生の意見を聞けるような意見箱をおく
- 2 学校に生徒の意見箱をクラスごとに置く
- 3 学校は学校を良くするための自由なお金を持ち、環境を良くする
- 4 大人は上から目線でなく、子ども目線で考えてほしい
- 5 大人は子どもの考えをもう少しちゃんと聞く
- 6 大人は子どもに注意するだけでなく、大人もルールを守ってほしい
- 7 大人は子どもが意見を言いやすい場をできるだけつくる
- 8 解決できないことは、しっかりその理由を言ってほしい
- 9 難しい言葉ではなくわかりやすい言葉を使ってほしい
- 10 子どもの遊び場を駅前（よく行く場所）に置いてほしい



■条文の説明

1 「学校に先生の意見を聞けるような意見箱をおく」

生徒ばかりが意見を言うのではなく、先生たちの考えや思いを日頃から聞ける場が欲しいと思います。

2 「学校に生徒の意見箱をクラスごとに置く」

学校に一つだけ意見箱を置くのではなく、クラスに一つずつ置くことで、意見が言いやすくなる。地域の公民館にも意見箱があればいいと思います。

3 「学校は学校を良くするための自由なお金を持ち、環境を良くする」

例えば、非常階段の幅を広くしてほしい、クーラーを設置してほしい、運動場を広くしてほしい、運動場の遊具やクラブ活動で使う道具をもっと増やしてほしいです。また、雨が降ったらプールは中止になるので、プールに屋根をつけてほしいです。

4 「大人は上から目線でなく、子ども目線で考えてほしい」

大人は上から目線で考えるのではなく、子どもと同じ目線で考えてほしい。学校の規則の中にも、子どもの目線で考えられているのか分からないものがあります。

5 「大人は子どもの考えをもう少しちゃんと聞く」

子どもの意見を「どうせ子どもだから」と言って、始めから聞かないのではなく、まず一度聞いてほしいです。できるかできないかに関わらず、まず聞いてほしいです。

6 「大人は子どもに注意するだけでなく、大人もルールを守ってほしい」

地域では信号を守らない大人が多いです。それに空地にゴミが捨ててあったり、駅の階段に嘔吐されたものがそのままだったりするのが汚いと思います。

7 「大人は子どもが意見を言いやすい場をできるだけつくる」

意見を言いやすい場とは、明るい雰囲気である場、緊張しない場、静かすぎない場、笑顔で聞いてくれる場、みんなが平等に話せる場、人の意見を否定しない場です。

8 「解決できないことは、しっかりその理由を言ってほしい」

理由を言ってくれなかったら全否定されているように思うからです。そして、言ってくれなかったらなぜ解決できないかが分からないからです。

9 「難しい言葉ではなくわかりやすい言葉を使ってほしい」

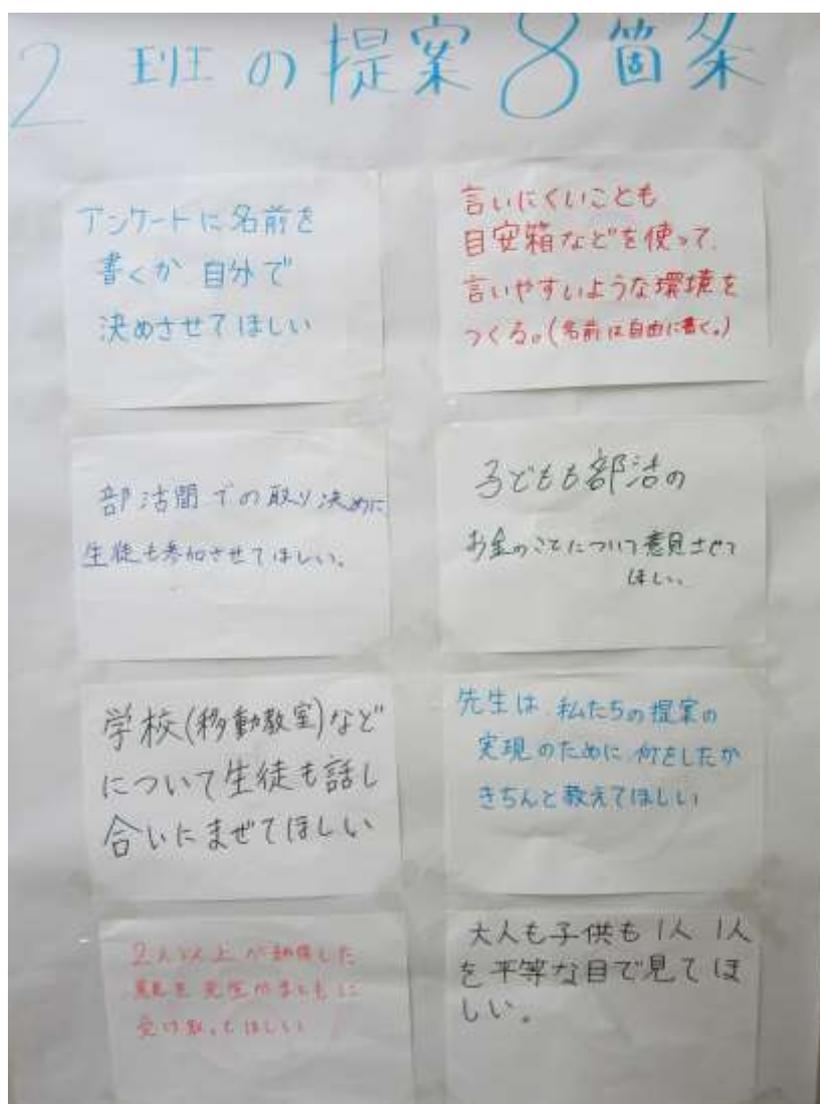
会議や話し合いなどで大人は分かっている言葉でも、子どもたちには分からない言葉を使っていることがあるからです。

10 「子どもの遊び場を駅前（よく行く場所）においてほしい」

通学路である駅前にはパチンコ店があって、とてもうるさくて迷惑です。駅前には子どもが遊べる場やスーパーを造ってほしいです。

2 2班

- 1 アンケートに名前を書くか自分で決めさせてほしい
- 2 言いにくいことも目安箱などを使って言いやすいような環境をつくる（名前は自由に書く）
- 3 部活間での取り決めに生徒も参加させてほしい
- 4 子どもも部活のお金のことについて意見させてほしい
- 5 学校（移動教室）などについて生徒も話し合いにまぜてほしい
- 6 先生は私たちの提案の実現のために、何をしたらきちんと教えてほしい
- 7 2人以上が納得した意見を先生がまともに受け取ってほしい
- 8 大人も子どもも一人ひとりを平等な目で見てほしい

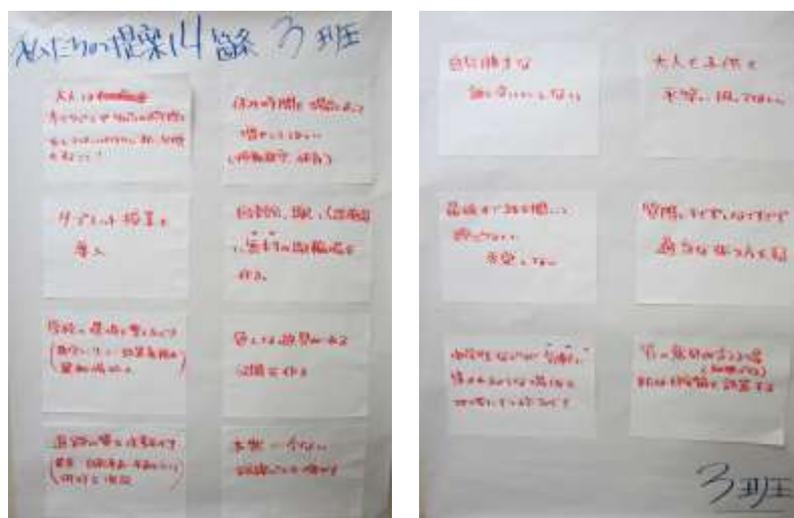


■条文の説明

- 1 「アンケートに名前を書くか自分で決めさせてほしい」
言いにくいことも無記名だと人に伝えやすいことがあるので、名前を書くかは自分で決めさせてほしいです。
- 2 「言いにくいことも目安箱などを使って言いやすいような環境をつくる（名前は自由に書く）」
誰でも気軽に意見を言えるような場が欲しいです。
- 3 「部活動での取り決めを決める場に生徒も参加させてほしい」
実際に部活動しているのは生徒なので、取り決めを決める場に生徒が参加すれば本当に必要なものが見えてくると思います。
- 4 「子どもも部活のお金のことについて意見させてほしい」
部活動のお金のことを先生だけで決めるのではなく、部活動をしている生徒にも決めさせてほしいです。
- 5 「学校（移動教室）などについて生徒も話し合いにまぜてほしい」
先生の意見が反映されるのではなく、生徒の意見をしっかり反映してほしいです。
- 6 「先生は私たちの提案の実現のために、何をしたかきちんと教えてほしい」
なぜ私たちの提案が実現できないのか理由を知りたいです。
- 7 「2人以上が納得した意見を先生がまともに受け取ってほしい」
1人だけの意見では、先生はしっかり受け取ってくれないので、2人以上が同じ意見だった場合は、先生もそれをまともに受け取ってほしいです。
- 8 「大人も子どもも一人ひとりを平等な目で見てほしい」
先生など大人は、子ども一人ひとりを平等な目で見てほしいです。

3 3班

- 1 大人は歩きタバコやタバコのポイ捨てをしてはいけない。また分煙もすること！
- 2 休み時間を場合によって増やしてほしい（移動教室、体育）
- 3 タブレット授業を導入
- 4 図書館、駅、公共施設に無料の駐輪場を作る
- 5 学校の環境を整えるべき（教室にクーラー設置義務と運動場拡大）
- 6 いろんな遊具がある公園を作る
- 7 道路の質を改善すべき（車道、自転車道、歩道を分ける、街灯を増設）
- 8 本数が少ない路線バスを増やす
- 9 自分勝手な話し合いにしない
- 10 大人も子どもも平等に扱ってほしい
- 11 最後まで話を聞いて頭ごなしに否定しない
- 12 質問しすぎず、しなさすぎず、適当な振り方をする
- 13 中学生などが気軽に集まれる場所を地域に一つ作るべき
- 14 みんなの意見が言える場（反映できる）または目安箱を設置する



■条文の説明

- 1 「大人は歩きタバコやタバコのポイ捨てをしてはいけない。また、分煙もすること！」
たまに歩きタバコをしている人を見かけます。その人の後ろを歩いているとタバコのおいで臭いし、その吸殻をポイ捨てしているので、歩きタバコやポイ捨てはやめてほしいです。また、周りの人のために分煙もしてほしいです。
- 2 「休み時間を場合によって増やしてほしい（移動教室、体育）」

体育の授業の前などは着替えをして、体育館にも行かなくてはいけないので、授業開始に間に合わない場合があるので、場合によっては休み時間を増やしてほしいです。

3 「タブレット授業を導入」

教科書が重くて大変なので、タブレット授業を導入してほしいです。

4 「図書館、駅、公共施設に無料の駐輪場を作る」

駐輪場の利用者には、まだ車の運転ができない人もいるので、無料の駐輪場を造ってほしいです。

5 「学校の環境を整えるべき（教室にクーラー設置義務と運動場拡大）」

休み時間中の運動場で、場所の取り合いをするうちに結局、休み時間が終わる場合があるので、運動場を拡大するとそういうこともなくなると思います。

6 「いろんな遊具がある公園を作る」

公園では、遊具を先にとられて遊べない子どもたちもいるので、遊具を多く作って公園を誰でも遊べるような状態にしてほしいです。

7 「道路の質を改善すべき（車道、自転車道、歩道を分ける、街灯を増設）」

子どもたちは夜、塾などから帰る時に自転車専用の道や街灯がないために車にぶつかりそうになる場合もあるので、道路の質を改善すべきです。

8 「本数が少ない路線バスを増やす」

路線バスの本数が少ない。観光でバスを利用する人もいるし、生活によく使うバスの本数が少なかったら不便だからです。

9 「自分勝手な話し合いにしない」

自分だけが話していたら、他の人はしゃべりづらくなるのでだめだと思います。

10 「大人も子どもも平等に扱ってほしい」

大人だけが話をしていると、子どもは話しぶらい。また、無理だから、子どもだからといった決めつけがあったら、平等ではないと思います。

11 「最後まで話を聞いて頭ごなしに否定しない」

子どもだからという理由で、話を全部聞かずに否定する大人がいます。そういうことはやめてほしいです。

12 「質問しすぎず、しなさすぎず、適当な振り方をする」

話し合いの中で、質問をされると緊張で答えられない子もいるし、質問をされないと答えにくい子もいるからです。

13 「中学生などが気軽に集まれる場所を地域に一つ作るべき」

中学生は、地域に集まれる場所がないので、作ってもらえたらうれしいです。

14 「みんなの意見が言える場（反映できる）または目安箱を設置する」

学校のことは生徒会が決めているのですが、決まったことは生徒会の意見で、私たちの意見ではありません。私たちにも意見を反映できるような場所を作ってほしいです。

各班の発表の様子



1 班



2 班



3 班

4 子どもたちのその他の意見

1 教育・歴史・文化

(1) 学校教育

① 通学

- ・集団下校を増やしてほしい
- ・自転車通学ができる範囲を拡げてほしい

② 通学路の安全

- ・不審者の取締りをしてほしい
- ・車のスピードが速過ぎて危ないのでゆっくり走ってほしい
- ・信号を守らない人がいて危ない
- ・通学路に歩道を造ってほしい
- ・通学路を広くしてほしい
- ・地域の方に道に立ってもらう
- ・通学路にちゃんとした歩道が欲しい

③ 学校の設備

- ・学校の人口密度が高すぎる
- ・携帯電話の所持を認めてほしい（公衆電話がないから）
- ・クーラーが欲しい（教室や体育館など）
- ・学校の遊具を増やしてほしい
- ・プールを使える回数を増やす
- ・屋根を増やしてほしい
- ・文房具を学校で売ってほしい
- ・勉強をがんばりたいので環境を良くしてほしい
- ・給食にしてほしい
- ・暑いので体育館での集会はやめてほしい
- ・昼休みにコンピューター室を開放してほしい
- ・エレベーターが欲しい
- ・トイレが遠い
- ・ウォータークーラーを多く設置してほしい
- ・生徒を集合させる回数を減らしてほしい
- ・教科書の冊数が多くなるのだったら机の面積を大きくしてほしい
- ・タブレット授業を導入してほしい
- ・教室の中央あたりが座席の人には外からの風が届かないのでクーラーをつけてほしい

- ・テレビがでかい（他のところに予算を使ってほしい）
- ・教科書が重いのでコンパクトにしてほしい
- ・予算を増やしてほしい
- ・運動場が狭い
- ・プールに屋根がない
- ・非常階段が狭い
- ・鉄棒が少ない
- ・クラブで使う道具が少ない
- ・1年生が学校内で迷う
- ・冷水機が少ない
- ・砂場のシートを新しくしてほしい
- ・部活動中にボールが飛んでくる
- ・学校内が暑い（教室や体育館など）
- ・運動場を部活動ごとに区切るネットがほしい
- ・運動場に日陰を作してほしい

④ 校則・規則

- ・長袖、長ズボンの制服にするか、制服をなくしてほしい
- ・私服や制服などに服装を指定されるのがいや
- ・最終下校の時刻が早い
- ・携帯電話を持って行けない
- ・部活動の時間が短い
- ・給食の時間が短い
- ・給食の量が多い
- ・夏休みが短い
- ・休み時間がもっとほしい
- ・部活動の休日が少ない
- ・掃除時間を長くしてほしい
- ・部活動の時間を短くしてほしい
- ・プールに入れる時間が短すぎる
- ・校則のできた理由が知りたい

⑤ 教師

- ・生徒の先生に対する話を聞いてほしい

(2) スポーツ振興

- ・市営プールが欲しい
- ・いろいろな年齢に対応した深さがあるプールが欲しい
- ・サッカーグラウンドが欲しい
- ・体育館が少ない

2 生活環境

(1) 環境保全

- ・花粉のアレルギーが辛い
- ・草むらにポイ捨てされたゴミがあるのが危ない
- ・草刈ができていないところがある
- ・草原があるところが少ない
- ・くだらない落書きは消す

(2) 生活・環境衛生

- ・道路にゴミが落ちている
- ・駅の中に汚物がそのままになっている
- ・歩きタバコをもっと厳しく取り締まってほしい
- ・未成年者がタバコを買えないようにする
- ・分煙の強化・罰金を科す
- ・いろいろなところにゴミ箱を設置する
- ・ポイ捨てに罰金を科す
- ・カラス対策で使用するネットを鉄の柵にする
- ・空き地にゴミがたくさん捨ててある
- ・習い事に追われる
- ・自習できる場所が欲しい

3 都市基盤

(1) 交通体系

- ・自転車を通れるスペースが欲しい
- ・電車をすべて各駅停車にしてほしい
- ・渋滞を解消してほしい
- ・信号機で音が鳴るものが少ない

- ・バス料金を安くしてほしい
- ・駐輪場の安全をPRする
- ・無料の駐輪場を造ってほしい

(2) 道路

- ・細い道路が多すぎる
- ・街灯を増やす
- ・段差を減らす
- ・自転車に乗る人にやさしい道路にしてほしい
- ・道路ががたがたで、ひび割れている
- ・歩道と車道があるなら自転車道も造ってほしい
- ・安全に歩けるスペースをつくる
- ・ミラーがないと危ないのでミラーを増やしてほしい
- ・5メートルに1本程度の間隔で街灯を付けてほしい

(3) 公園・緑地

- ・公園が近くにない
- ・遊具が少ない、小さい
- ・バーベキューができる公園が欲しい
- ・いろんな年齢の人が遊べる遊具が欲しい
- ・ボール遊びが遠慮なくできるところが欲しい
- ・安全で楽しい公園が欲しい
- ・公園の見栄えや安全を良くしてほしい
- ・空き地を有効活用
- ・ボールが敷地外に飛ばないようにネットをつけて球技ができるようにしてほしい
- ・公園が少ない
- ・公園が球技禁止なので、球技ができるようにしてほしい
- ・花火ができる場所が欲しい

4 経済

(1) 観光

- ・駅に地図を増やしてほしい
- ・地図が少ない

(2) 商工・サービス業

- ・中学生が遊べる場が少なすぎる

- ・草の手入れのためにアルバイトを雇えば失業率が低くなる
- ・奈良には遊べる施設が少ない

1 班から出た意見



2 班から出た意見



3 班から出た意見



第3章 振り返りシート

子どもたちが、5回にわたるワークショップを振り返り、感じたことや、気づいたこと、印象に残ったことを書いたシートをまとめたものです。

子どもたちの、感想や意見をできるだけ正確に伝えるために、子どもたちが書いた原文で掲載しています。

1 子どもたちの振り返り

(1) 今の私の気持ちを一言で言うと…

- ・子ども条例が作られてほしい。
- ・楽しい。
- ・色々なことができて楽しかった。
- ・色々意見があつてとても楽しい。
- ・自分一人の視点からだけでなくたくさんの意見が聞けて楽しかった。
- ・達成感。
- ・楽しかった。
- ・すごく楽しかった。
- ・いろいろ発言できてよかった。
- ・充実していた。
- ・本当に、私達の意見が条例になるのかなあー…??
- ・楽しかった。
- ・楽しい。
- ・楽しかった。

(2) ワークショップの始めから終わりまでを思い起こして、記入してみましよう。

① 私が最も印象に残った出来事は、……

- ・合格できたこと。
- ・「自分が、今なやんでいること」の考え。
- ・第1回の自己紹介。
- ・自己紹介をする事。
- ・学校に目安箱をおくという意見が出た時。
- ・付箋を読み上げて模造紙に貼る作業（3回目のとき）。
- ・みんながすごくフレンドリーでやさしかった。
- ・お菓子やジュースがたくさんあった。話し合いがたくさんできた。
- ・自己紹介、話し合い、レクリエーション。
- ・自分のあだ名決め。

- ・ワークショップに参加している人が減少していること…。(涙)
- ・最後のまとめ。
- ・名札を作ること。
- ・話し合いできたこと。

② 私がうれしかったことは、……

- ・いろいろな人に会えたこと。
- ・意見がたくさん言えた。
- ・みんなが自分の意見を聞いてくれたこと。
- ・みんなに自分の意見が良いと言われた事。
- ・自分の意見が取り入れてもらえた時。
- ・自分の意見に“同じだ”という人がいた時。
- ・みんなが話し合うためにここに集まっているのでやる気がすごくあったこと。
- ・他校の友達ができた。まわりの意見がたくさん聞いた。
- ・みんなと色々なことを話し合えたこと。いろんな視点で話し合えたこと。
- ・皆が意見を聞いてくれたこと。
- ・サポーターの人が、めっちゃ優しかったこと。
- ・思っていたよりも発言できたこと。
- ・人の話を聞いてくれたこと。
- ・意見が言えたし、聞いた。

③ 私が驚いたことは、……

- ・合格できたこと。
- ・みんながちがう意見で、やっぱり、同じ人もいたこと。
- ・小学校が少なかったこと。
- ・みんな違う意見を持っていて同じ意見が少なかった事。
- ・自分が考えてもみなかったような意見がたくさん出た事。
- ・道路などに不便なことがあることを意見で言っている人がいたこと。
- ・ちがう学校でも、不便に感じていることは同じだったこと。
- ・みんなと話し合っていると、自分の意見がたくさん出せた。
- ・考えれば考えるほどでてきて、いろんな意見があってよかった。
- ・予想以上に発言しやすかったこと。
- ・同じ中学でも、思っていることが違ったこと。
- ・おかしがいっぱいあったこと。
- ・みんなが、人の話をしっかり聞いていたこと。
- ・たくさんの意見が出た事。

④ 私が勇気を出せたと感じたことは、……

- ・ 自こしょうかい。
- ・ 自分の意見を言ったとき。
- ・ 意見をたくさん言った事。
- ・ 自分の思っていることをそのまま言えた事。
- ・ いじめなどのことをふせんに書き、発表したこと。
- ・ 最後に前で発表できたこと。
- ・ 自分の意見をたくさん言えた。
- ・ 進んで発表できたこと。
- ・ 意見を発表するときこと。
- ・ 自分が思っている意見を言えたこと。
- ・ 自分が話している時。
- ・ 話すとき。
- ・ 話し合えたこと。

⑤ 私が楽しかったことは、……

- ・ 友達と、いっしょに来て、みんなと話せたこと。
- ・ みんなの意見を聞いて、みんなはどういうふうに思っているか聞くこと？
- ・ 子ども条例を決めること。
- ・ みんながどんな意見なのが聞く事。
- ・ みんなと協力し合って話し合えたこと。
- ・ 班の人たちと意見を出し合って話し合ったり、関係のないことも休み時間に話せたこと。
- ・ みんなと話し合って、自分が考えなかった意見を聞いた。
- ・ リクリエーション、話し合い。
- ・ 朝のゲーム。
- ・ いろいろな意見を聞いたこと。
- ・ 話し合い。
- ・ しゃべっているとき。
- ・ 朝のゲームの時間。

⑥ 私が残念だったことは、……

- ・ 第2回がいけなかったこと。
- ・ もっと大人数の人が来てみんなで相談したかったです。
- ・ 自分の意見を深く追及してから発表しなかったこと。
- ・ 5回のうち、3回しか出席できなかったこと。
- ・ なかなか、意見が思い浮かばなかったときがあった。
- ・ いろんな悪い所の意見がでたこと。
- ・ ゲームで上手くいかなかったこと。

- ・最後の発表がぐだぐだだったこと。
- ・1回目、2回目にこれなかったこと。

⑦ 私がこのワークショップを通じて、自分自身のことについて気づいたことは、

……

- ・最初は、緊張したけど、だんだんなれて楽しくなっているのに気づいた。
- ・自分もがんばればこれだけ意見を出せるということ。
- ・子どもも主役なんだなぁと気づきました。
- ・みんなについていける事が分かった。
- ・初対面の人とも話せること。
- ・まだまだいきなり話をふられても、自分の言いたいことを全部伝えられるような文章を考えられなかったこと。
- ・自分が思っている以上に、不満や、改善点があった。
- ・自分も考えればきちんと意見を言えること。
- ・個性的な意見が多かった。
- ・毎日生活している中で、困っていること、不便なことがたくさんあるということに気づいた！
- ・思ったより話せること。
- ・意外と人前で話せる。
- ・みんな1人1人意見をもっていること、それを言えること。

⑧ 私がこのワークショップを通じて学んだことは、……

- ・大人は、子どもの事を考えないでやっているから、子どもの言うことを聞けることが分かった。
- ・自分以外の人達はそれぞれの意見がいっぱいあるんだなぁと学んだ。
- ・みんなで意見を出し合ったら、どうすれば全く分からない事。でもたくさん意見が聞けることです。
- ・話し合いのしかたや協力し合ったあとの達成感。
- ・どのような事もあきらめないで説明したら大人の人でもちゃんと伝わるということ。
- ・みんなで、いろいろなことを話し合う、自分の意見をちゃんと言う、大切さ。
- ・1人1人の意見の大切さ。話し合いの大切さ。積極性の大切さ。
- ・意見は遠りよせずに言う。
- ・自分の意見も大事だけど、他の人の意見も大事にしないといけないことを学んだ！
- ・みんなでまとめると1人よりもすごい物ができる。
- ・他の人の意見を考えること。しっかり自分の意見をもつこと。
- ・自分だけじゃ無理でもみんなと話し合えば色々な意見がでてくるんだなと思いました。

(3) 今回のワークショップの体験をこれからの暮らしでどのように活かしていきたいですか？

- ・信号を無しをしている人を見つけたら、できるだけ注意をする。
- ・学校や地域で、「こんな事を学んだよ」とか「またあったらいっしょに行こう」といって活かしたり、自分の意見だけではなくほかの人の意見を考える様にします。
- ・学校などで人と話し合う場を大切にしていこうようにしたいです。
- ・学校で話し合うときに学んだことを考りよしてみんなが発言しやすいように進めていきたい。
- ・生徒会活動で先生と話す機会が多いので、生徒の意見をもっと伝えていきたい。
- ・ダメなこととして出したことを自分もしないように気を付ける。
- ・学校や地域の生活の中でもっと進んで発信して、自分自身の意見を持つことを大切にす。
- ・学校授業の中で、発言できるように活かしていきたい。
- ・ちょっとでも「おかしいな…？」と思ったことでも、自分の意見として発表する！
- ・人に相談できるようにする。
- ・思ったことをまよわずに言うことを大切にする。人との接し方を大切にする。
- ・友たちや家族とも何かあったら話し合っって、みんなが合意できるようにすることを大切に。

(4) その他。私を感じたことや気づいたこと、考えたこと、印象に残ったことなど、ご自由に。

- ・子ども条例は、必要だと分かった。
- ・けっこう、意見がいて良かったと思いました。自分達の町に関してあまり考える事がなかったので良いきかいだったなあと思いました。
- ・みんなが自分の思っている意見をそのまま出し合ったら、自分だけで考えても全然どうすれば分からなかった事もいろんな視点から見る事が出来るので、話し合いの場は大切なんだとあらためて思いました。
- ・様々な意見があってもそれらは結局“何がしたい”というところは一緒だったことに気付きました。
- ・大人の人にやってほしい事や、してほしいこともたくさんあるけど、その事ばかり頼むのではなく、子どもが出来ることも自分たちですることによって、もっと住みやすくなるということ。
- ・とにかく、このワークショップは、楽しかったです。また、機会があれば、参加したいです。
- ・「これから奈良全体がすごく良い町になればいいな。」と思った。
- ・「いろんな人の視点が話したきまりができるといいな。」と思った。
- ・学校や年れいが違う人と話せてよかった。自分の街について考える機会はなかなか

ないので、すごくいい時間をすごせた。

- ・サポーターの人がずっと話していて、自分の意見を言うタイミングがつかめなかった…。
- ・この話しあったことが、子ども条例になるとすごいと思いました。
- ・久しぶりに人の前で話して楽しかった。またどんどん話していきたいと思った。知らない人の接し方を考えてなやんだ。
- ・1人だけではできない話し合いもほかの人がいればたくさん意見がでてくると気づいた。

2 サポーターの振り返り

(1) 今の私の気持ちを一言で言うと…

- ・子どもたちの言葉を整理するのはとても難しかったなと改めて思う。
- ・いろんな意見が出ておもしろい。
- ・満足
- ・楽しかった。
- ・もう終わりか…。
- ・やりきった（初戦）。

(2) ワークショップの始めから終わりまでを思い起こして、記入してみましよう。

① 私が最も印象に残った出来事は、……

- ・最終回である今日の話し合いで見られた、友達の見解に対して異論を述べる子どもが出てきたこと。
- ・10ヶ条の設定
- ・先生はちょっとばかり誠意に欠けるという意見が多い。
- ・子どもならではの意見。
- ・1回目の人数の少なさ。
- ・真剣に考えを紙に書いている姿、集中力。

② 私がうれしかったことは、……

- ・みんなが少しずつ自分のペースにあわせて、意見を言えるようになったこと。
- ・全員が意見を言っていること、いろんな話をしてくれたこと。
- ・ルールにきれいにまとまった。
- ・自分の悩み、不満を共感できたこと。
- ・皆の本音、生の声が聞けたこと。
- ・出席率の良さ、最後の雰囲気。

③ 私が驚いたことは、……

- ・量や内容は違っても、子どもたちはしっかり自分の意見をもっているということ。
- ・そんなところまで目がいくのかと思う意見があったこと。
- ・出席率がよかったこと。
- ・「難しい言葉を使わないでほしい」という意見があった時。
- ・小学生チームの皆もちょうとした意見を持つてること。
- ・深い意見、理解力。

④ 私が勇気を出せたと感じたことは、……

- ・人間知恵の輪（アイスブレイクのゲーム）。
- ・意見を述べた時。
- ・初対面の時。
- ・自分の話もしながら聞き役を果たしたこと（リアクション）。

⑤ 私が楽しかったことは、……

- ・みんなと出会えて、みんなといろんな話ができしたこと。
- ・普段とは異なる話し合いができしたこと。
- ・いろいろな話しをできたこと。
- ・お菓子を食べておしゃべり。
- ・皆の普段の何気ない話を聞けたこと。
- ・少しずつメンバーの個性が分かってきた。

⑥ 私が残念だったことは、……

- ・話し合いにメリハリを持つことができなかつたこと。
- ・第2回でのアイスブレイクが盛り上がり欠けたこと。
- ・もっと話し合いをしたかった。
- ・意見がうまく言えない人もいた、引き出すことができなかつた。
- ・毎回関わる班が違ってしまったこと。
- ・もう少し個別で聞きたいことが、深く共有できる信頼をつくりたかった。

⑦ 私がこのワークショップを通じて、自分自身のことについて気づいたことは、……

- ・話し合いをスムーズに進めようとしすぎていたところもあって、少し反省した。
- ・話の誘導が難しい。
- ・人としゃべるのが好き。
- ・子どもたちが何を思っているか、考えているのか、まだまだ知らないことが多い。
- ・意見を聞くことは楽しい。
- ・ファシリをもっと知りたい（興味あり）。

⑧ 私がこのワークショップを通じて学んだことは、……

- ・子どもたちの意見を、子どもたちの言いたいことを理解して、みんなが分かるよう

に言いかえるのはとても難しいけど、とても大切だと思った。

- ・子どももしっかり考えていること。
- ・先生はもっと頑張らなければ。
- ・子どもたちが持っている意見、不満、悩み。
- ・中途半端はイヤ！
- ・子どもの学びの場の必要性、意見の深さ。

(3) 今回のワークショップの体験をこれからの暮らしでどのように活かしていきたいですか？

- ・将来、子どもと関わる仕事に就く際に、子どもの訴えをしっかり聞くには、子どものペースに合わせて聞くことを学んだので活かしていきたい。
- ・子どもの考えていることをもう少し深く考えてみようと思う。
- ・積極的に多くの意見を聴く。
- ・学校で子どもたちの意見を尊重する、大切にすること。
- ・サークルで聞くことの大切さを大事にしていきたい。
- ・ユースアクトや仕事、友人との接し方から意識して話を聴く（傾聴）。

(4) その他。私が感じたことや気づいたこと、考えたこと、印象に残ったことなど、ご自由に。

- ・信頼関係をしっかり築いていくことで、自分の意見を言いやすくなっているのが、すごく見えておもしろかった。
- ・このような話し合いの場に出た意見が条例になったらと思うと素直に嬉しい。
- ・みんなとてもまじめ。
- ・2時間では時間が短い、丁寧に意見を聞くことができず先に進めてしまうことを優先してしまう。
- ・最後は楽しく、真剣に話し合えた。

第4章 奈良市子ども条例検討委員との意見交換

平成25年8月23日(金)に開催された第11回奈良市子ども条例検討委員会において、ワークショップ参加者の子どもたち10人と奈良市子ども条例検討委員との意見交換を行いました。

意見交換は、子どもたちと委員の方々がA班とB班に分かれ、前半と後半の2部制で行いました。なお、委員の方々につきましては、前半が終わった時点でもう一つの班に移動し、参加した子どもたち全員と意見交換ができる形で実施しました。子ども参加者については、アルファベットA～Jで表記しています。

1 A班

(1) 前半

子ども条例検討委員：浜田委員長、原委員、都築委員、

事務局：石原子ども未来部理事、山岡子ども未来部参事、中川子ども政策課長

サポーター：須田さん、瀧本さん

浜田委員長 14箇条についてどんどん質問してください。

原委員 自分勝手な話し合いにしないっていうのは子ども同士の話し合いなのか、それとも、大人と子どもでなにかするときなのか。

Gさん どっちもで、やっぱり一人だけしゃべってたら、みんな話しづらいし、大人でもそういうのは同じだと思うから。

浜田委員長 じゃあ、大人も子どもも自分勝手な話し合いをしない。ということは、大人も子どもも自分勝手な話をしてることが多いということ。

原委員 そういう話し合いの場なんかは見てると少ないのかなと思うんですけど、そういう場もないのですか。

Gさん たまに学校でもそういう学級代表の集まりとかで。

原委員 機会があるということですね。

都築委員 質問しすぎず、しなさすぎず、適当な振り方をするってあるでしょう。それは例えばどういうふうなシチュエーションとかどういう場面を…先生と生徒のやりとり？

Hさん 司会の方が、「これは何ですか」という軽い感じやったら、こっちも気軽に答えられるんですけど、「ちゃんと教えてくださいよ」みたいなきつい言い方をされるとちょっと怖いし、何度も何度も繰り返されたり、質問に答えにくかったりすることもたくさんあるし…「何ですか」って言われたら、言葉も出てこないのに言われたらしんどくなるからです。

都築委員 それがこういう場面でもかな。聞きにくくなってしまうね。

山岡参事 しゃべりやすい場所を作るとかね。何でも言えるような。

原委員 今回、サポーターさんがいて、説明するときに代わりにこうじゃないっ

て言ってもらえたりしたと思うんですけど、そういういわゆる大人ですが、大人の存在っていうのはどういう感じに思いますか。

Hさん サポーターの人がいてくれるのは、なんかうまく言えないことを助けてもらう感じで、楽にワークショップを進めることができました。

原委員 やっぱそういう人たちがそばにいるといいなあと思いますか。

Hさん はい。

浜田委員長 最後まで話を聞いてほしいというのはどういうことなんでしょうか。

Hさん 最終的な理由を聞かずに、途中で「こうやってほしいんですけど」って言った瞬間にだめって言われたり、「～だから」っていうのを付け加えたいのに、話してる途中とかでだめって言われることがたまにあって、そういうのはちゃんと自分の意見を最後まで聞いてないのにだめって言われるのはショック…ショックじゃないけど、悲しくなるから。

浜田委員長 これからいろいろ言いたいときにさえぎられたり…

Hさん まず、だめって言われたら、「あーだめなのかな」って思って、最後まで言えなくなっちゃう。

浜田委員長 あの提案の中で特に言いたいことは。

Jさん 昨日、塾から帰ってる途中で街灯が無くて、気づいたら車にひかれそうになった。ちょっと危なかったんで。

都築委員 割と通学路のことって、いろんな意見が挙がってたけど、やっぱりみんなは下校のときとか登校のときとか危ないなって思うことは多い。

Iさん 登校とか下校のときはあまり自転車は走ってないけど、習い事とかに行くときは自転車がいっぱい走っていて…車道を走ったら危ないし、歩道を走っても人に当たりそうになったりして危ない。

浜田委員長 交通の安全とかね。あと、中学生が気軽に集まれるところっていうのは、例えば3 on 3とか、バスケとか。中高生が遊べる場所が少ないっていうこと？



Hさん 小中学生…さっき言われたような児童館みたいな場所が無いから、遊べるといったら、スーパーのフードコートとかになってしまっていて、そこではおしゃべりはご遠慮くださいって書いてあって、じゃあ、どこで集まればいいんだと思って、家に行こうと思っても、お母さんとかがいるからだめって言われて、だから、公園とかに集まろうと思っても、小学生とかが遊んでたりして、座るところもないし。だから、そういうことのできるような場所、施設みたいなところを造ってほしい。

浜田委員長 できたら無料で？

Hさん 無料で。公共施設的なもの。誰でも入れるような。

山岡参事 その場所というのは、是非とも置いてもらいたいものとかはあるんですか。こんなもの置いてほしいとか。

浜田委員長 カップラーメンとか、バンドの練習ができたり、三味線できたりとか。

Hさん 誰でも遊べるような…

原委員 集まっておしゃべりなり…

Hさん おしゃべり以外にもなんかドッジボール…ドッジボールじゃないけど、ちょっとしたスポーツ、体育館ですのようなスポーツとかができたらいいなと思います。

山岡参事 そこへ行ったら誰かが集まっているというような感じやね。

Hさん そんな感じです。そこに行けば誰とでも知り合えたり。

都築委員 それは同世代だけじゃなくって、例えば小学生とか高校生とか近所のおじちゃん、おばちゃんとかも一緒でもいいのかな。

Hさん いいです。近所…地域の人が大人も子どもも集まれるような場所がほしいです。

浜田委員長 公民館とかあるけど、やっぱり中高生は行きにくい？

Hさん 行きにくいです。

浜田委員長 行きにくいか。

Hさん おじいちゃんとかおばあちゃんが使ってる…行きにくい。

都築委員 それっていろんな規定があって、グループを作って、その中でしてってというような、いろんな規定があるのでね。

原委員 ある自治体では、公民館の中に中高生が集まりやすい環境を作ろうということで、ロビーの一角を、中高生が集まっても、大人がちょっと我慢しようねとかそういうのもあった。今の公民館だとそういうのがあんまりないかもしれない。

Hさん 人数があまり集まらない。

浜田委員長 なんか満杯のイメージ。

都築委員 満杯。大人がいっぱい集まっています。

原委員 アンケートで、すごく図書館の利用が多かった印象があるんですけど、図書館だけじゃないですけど、そういうところにしゃべりに行ける場と

かあったらどうですか。

Hさん 図書館とかだったら、大きい地域に1つぐらいしかなくて、中学校の校区の中で1つあるわけじゃないから、校区外に遊びに行くことになってしまっ、それやったら、遠いし、行きにくい。

都築委員 男子はどうですか。そういう集まる場はどんなのが…おしゃべりして、ちょっと勉強したりっていうような楽しい…男子はどうですか。

Gさん やっぱ公園に中学生の男子でも楽しめるようなロープとかアスレチックとかがあればいい。

都築委員 今の公園では物足りない？

Gさん 物足りない。

浜田委員長 中学生は行きにくいよね。どんな居場所があったらいいですか。

Jさん 自由に使っても、あまり「ここでこれをやられたら困るよ」って言われなくて、のびのびと遊べる場所がいい。

都築委員 それは屋内も屋外も？例えば外の公園でね、中学生で今、ロープっていう話が出たけど、これはやったらあかん、あれはやったらあかんって言われずになんでもやっていけるとしたら、どんなことをやってみたい？

Jさん 近くの公園で球技が禁止なので、野球とかサッカーとか思いっきりやってみたい。

都築委員 秘密基地を造るのはもう卒業かな。スポーツ系なんですかね。

木登りとか釣りはどうですか？そんなんは今どきしない？

Jさん 釣りができない。

原委員 やっぱ今の児童館だと中学生は野球、バスケ、バトミントン、あと小学生と混じってドッジボールとか、体を動かすのが好きですね。

浜田委員長 児童館はあまりないですからね。



- 石原理事 例え、集まれる場所になにか相談できる人とか、そんな人がいた方がいいのか、それとも場所だけがあればいいのか。どんな感じですか。
- Hさん まず、場所があったら、自然と人も集まるかなと。それで、大人の人が集まったら、何か教えてもらったりできるし。なので、造るときは場所から始めたらいいと思います。
- 山岡参事 今はどんな場所で集まっているのかな。
- Hさん 今は近くにスーパーがあって、そのフードコートにみんなが集まるようになって、たまに学校の先生が見回りに来て、「帰りなさい」とか言われたりして、だから、本当に一緒に友達といられる場所が無いから。
- 浜田委員長 神戸とか横浜って中学校区2～3校分ぐらいに、駅前にそういうおしゃべりできるところがあるみたいですね。
- 原委員 そこにこういう人がいたらいいなあとかありますか。
- Jさん 公園で遊んでいたら、鍵が見つかって、この鍵はどうすればいいのかなって、忘れていったのか、それとも置いてるのかわからなかったの、ちょっとそういう時は誰かに言いたかったけど、警察とかも遠かったの、そのときは困りました。
- 原委員 やっぱり大人の人がいてくれると安心なのかな。
- Jさん 場合によっては、やっぱりいてた方がいいかも。
- 浜田委員長 目安箱のことなんですけど、逆に言いにくい…今日はこうやって来てくれているじゃないですか。どの班も目安箱って出ていたんで。やっぱりそういうイジメとかで言いにくいことが多いってことですか。
- Hさん イジメも言いにくいことやと思うけど、あの学校の方針じゃなくて、なんか、「ここが悪いと思うから直してほしい」とか言うところがあったりして、でもそういうことはなかなか先生にも言いづらいし、だから、目安箱やったら名前を書かないでも、意見として入れられるから、だから、そういうふうは無記名で…
- 浜田委員長 秘密が守られるし、安心やね。なかなかみなさん言いにくいですか。
- Gさん 言いにくいこともある。
- 都築委員 休み時間を増やしてほしいとか移動教室のこととか割と全部の生徒に関係するような意見が結構出ているんだけど、そういうのきっと他の子も感じてると思うんだけど、そんなのってここでなかなか話できない？
- Jさん プールの後に、まったく反対の方向の美術の教室の場合、美術の先生が「ちょっとみんな、もうちょっと早く着替えてくれないかな」って言われて、頑張っているんですけど、ちょっと水着の着替えとか濡れてるから時間かかったりして、どうしても。
- 都築委員 でも、先生はみんなもうちょっと頑張ってくれないかなと言いはるんですね。
- Jさん 先生はやっぱり自分の授業をあんまり短くしたくないのかなって。

- 都築委員 先生はわかってくれないのかな。どう思う？
- Jさん いや、けっこうわかってきているんですけど、めっちゃ遅い人とかいるんで、さすがに。
- 原委員 目安箱に意見を入れますよね。その後、その意見が検討されるところに参加したりとかそういうのは。
- Hさん 参加したいです。月に1回でも、2か月に1回でもいいから、学校で意見を言いたい人が集まるような会議、生徒会とかじゃなくて、普通の一般の人が集まって話し合えるような会議を開いてほしい。
- 都築委員 今、学校でそういう場がほしいっていうことだったけれども、例えば、地域ではどうかな。例えば、地域では自治会とか大人の話し合いの場はあるんだけど。地域でそういう場をやってみたいとか意見を言えたらなって思う事はある？例えば、遊びのことにしても、公園にうるさいおじちゃんがいるとかして、子どもの意見を聞いてほしいとか。
- Iさん 公園で球技ができないっていうのを言おうと思っても、周りに家があるから、もし、野球とかしてボールが飛んで行ってガラス割れたりしたら…
- 原委員 地域でいわゆる行事とかそういうのはあんまりないんですか。
- Iさん お祭りぐらい。
- 原委員 お祭りの時はそういうお祭りに参加するっていう感じ。で、そのお祭りを地域の人と一緒に準備するというのはあんまりないんですか。
- Iさん 準備とか話し合いは全部大人…
- Hさん 自治会ってあるじゃないですか。それに子どもも参加できるようにしたらいいと思います。

(2) 後半

- 子ども条例検討委員：木下副委員長、近藤委員
- 事務局：寺田子ども未来部長、亀井いじめ対策生徒指導室長、高田学校教育課長補佐、玉中地域教育課長補佐
- サポーター：須田さん、瀧本さん
- 近藤委員 まず、1人ずつ、「何が一番言いたいのか」を聞いてみましょうか。一番これだけは言っておきたいっていうのを。
- Jさん 小学校のときに運動場はサッカーとかを禁止にされて、仕方がないから、公園でサッカーしようと思ったら、公園でもサッカー禁止にされて、どこで遊べばいいのかと思って、道路で遊んでいたら、今度は車にぶつかりそうになって、危ないって言われて。仕方がないから、家のなかでゲームして。
- 近藤委員 なるほど。それは14箇条でいうと。

- Jさん あの前6つ目の「いろんな遊具のある公園をつくる」です。ネットとか作ってもらって。
- 近藤委員 いろんな目的に使える公園がほしい。
- 木下委員 さっきの意見だと、いろいろ禁止事項が多かったり、してはいけないとか…だから、そういういろんな遊びができる公園ですね。
- Iさん 3つ目のタブレット授業の導入。教科書がいつも重たくて、夏とかだったら、どこかで2、3回休憩して、一回かばんを下ろして、また、持っていくことがあって。あと、忘れ物をしないようにタブレット授業にしてほしい。
- 木下委員 中学校になると、けっこう重いんだよね。学校に置いてはいけないんだよね。
- 亀井室長 部活動の持ち物とか。
- 木下委員 それは重くなるね。
- Hさん 中学生などが気軽に集まれるような場所を地域に一つ造ってほしいです。
- 木下委員 中学生が今、例えばクラブなんかで、平日の放課後、帰る時間とか、土日とか、集まる場所ってどこかない？
- Hさん 今はスーパーのフードコートに集まっているんですけど、おしゃべり禁止って張り紙に書いてあって、しゃべってるだけはだめですって。そういうのを専用でできるような場所があったら、しかも無料で使えたら、本当にうれしいです。
- 木下委員 公民館とかそういうところはあんまり使わないの？
- Hさん 公民館は大人の人が占領していて、空いてる場所がない。
- 近藤委員 どう。他には。
- Gさん やっぱり自分勝手に話合いしてはだめというのが…
- 木下委員 大人の自分勝手ですか。
- Gさん 大人もだし…一方的に話したり、自分だけになったり。
- 木下委員 5回のワークショップでの話し合いはそういう自分勝手な話し合いはなかった？
- Gさん 全然ないです。
- 木下委員 自分勝手じゃない話し合い。学校の授業の中で、生徒同士が話し合うとかそういう場はないんですか。
- Gさん あります。
- 木下委員 それは自分勝手じゃない？
- Gさん 大丈夫です。
- 木下委員 大丈夫。じゃあ、どういうところであるのかな。自分勝手な話し合いって。
- Gさん やっぱりクラスの代表とかが集まるところで自分のクラスの意見を言っ

て、それを一方的に改善していきたいって言って、他のクラスの意見が聞けなかったりします。

木下委員　　そういう話し合いの場。決めるとき。決め方とか。

例えば、あっちのグループでも聞いたんだけど、こういう小中学生が集まって話し合いをするというのは、みんな、初めてかな？こういう場というのは。他に奈良の中でこういう機会ってあった？

Hさん　　ないです。

木下委員　　ない。それで目安箱とか。なんか市に意見を言いたいときに意見を言う場ってなかった？

Hさん　　ないです。

木下委員　　市民から市長あてに意見を述べたりとか、そういうのはできるんだけど、あんまりやろうとも思わないのかな。

Hさん　　あと手紙とかより、直接こうやって会ってしゃべった方が思いって伝わりやすい。

木下委員　　そうだね。それって大事なことだよ。なんか気が付けないこともあったりするよね。普段そういうことあった？話し合いの中で。



Hさん　　何か自分がいつも困っていること、不満に思っていることなんかを話したら、なんか他の人たちは「いや、そうでもないよ」って。なんか人によって思っていることが全然違う。

木下委員　　他にそういうことはないですか。

Iさん　　ないです。

Jさん　　やっぱり違う学校だと、「ああ、実はそうだったのか」みたいな、結構びっくりした。

木下委員　　学校でも違う。

いろんな学校、あるいは生徒会が集まってとか。他の中学生と出会う場ってというのはありますか。

Hさん 中学生同士で他の学校の人と会うっていったら、試合とか、そういう時ぐらいしかなくて。それ以外はない。

亀井室長 あと塾ぐらいかな。

Hさん あ、そうです。

木下委員 みんな、塾は行ってるのかな。アンケートでも塾のこと聞いたりしたけど、奈良は学習塾に行ってる子は多いんだけど。みんなどうですか。自分で進んで好きで塾に行く。それとも、言われて行ってる。

Gさん 自分で。

木下委員 他にどうですか。

Hさん 私も自分で行きたいって言いました。

木下委員 自分で。

Iさん 最初、お母さんが言ってて、そこから、言われたことはある。

Jさん ちょっと成績が落ちて、自分で行きたいなって。

木下委員 そういう塾と部活と学校があると思うけど、そういう自由な時間ってある？

Jさん 自由な時間は夏休みとか、部活が終わって塾が始まるまでの時間にちょっと集まって遊んだり。

近藤委員 部活はほぼ毎日あるの？

Jさん 毎日ある。

近藤委員 毎日では忙しいね。
あと、前の模造紙に「大人も子どもも平等に扱ってほしい」っていうふうにあるけど、なんかやっぱり平等に扱われていないって思いますか？

Gさん 子どもだから、大人から、ちょっと上から…

近藤委員 上から言われる？それは、親？先生？全部？

Gさん 先生とか。

近藤委員 先生とか。どう？

Hさん けっこう思う。なんか先生とかに「そう思うんですけど」って言っても、「子どもがそんな」みたいな。

木下委員 だから、最後まで聞いてくれないって意見があるんですね。

近藤委員 自分勝手な話合いにしないっていうのも同じような意見ですね。

木下委員 あまり周りに話を聞いてくれる大人っていないですか。

Hさん いない。

近藤委員 お父さん、お母さんは？

Hさん お父さん、お母さんは聞いてくれるんですけど。学校の先生とかは。

木下委員 近所のおじさん、おばさんとかそういうのは。

Hさん 近所はなんか付き合いがないみたいな。家にこもりっぱなしで、外で会うこともなくて。会う機会がまず少ない。

木下委員 近所のおじさん、おばさんで自分の顔を知ってるとか、名前と呼んだり

とかあいさつとかは？

Hさん 　　まず会わないからあいさつすることもない。
木下委員 　　近くにいない？ちっちゃいころから知っていて、「大きくなったね」とか
　　言ってくれる人。

Hさん 　　いない。

Iさん 　　僕のところはなんかいっぱいいます。
木下委員 　　地域によるんだね。

　　じゃあ、小学生時代とかちっちゃいころの遊び仲間とか近所にいた？

Iさん 　　いなかった。

木下委員 　　いなかったんだ。
　　さっきのいろんな遊具がある公園を作るといろんな遊びができるってこ
　　とだけど、そういう時ってどういう友達と遊んでいるの？同じ学校とか？

Jさん 　　同じ学校の学年の友達とかと一緒に野球やろうってやってたけど、今は
　　あんまり。ちょっと時間がないので。

近藤委員 　　学校の先生とか両親とかは話はちゃんと聞いてくれるか。

Jさん 　　親は一応、聞いてくれるけど、学校の先生とかには言いたくないことも
　　ある。

近藤委員 　　それは担任の先生でも？

Jさん 　　ほとんど。

近藤委員 　　ほとんどの先生が。
　　大人は自分の意見を聞いて、ちゃんと汲み取ってくれてるとはあまり思
　　えない？

Jさん 　　思えない。

近藤委員 　　思えないよね。そういうこと話し合う場っていうのは学校の中にあつた
　　りする？

玉中補佐 　　いろいろ困ったことがあつたりしたら、相談できる人ってほしい親と
　　か？

Jさん 　　部活の先輩とか。

木下委員 　　具体的な提案で、道路の質を改善すべきってあるんですけど、歩道、自
　　転車道、やっぱり道路は危険だと思いますか。

Jさん 　　危ないです。溝に落ちそうになって。

木下委員 　　自転車で？歩いてて？

Jさん 　　自転車で。

木下委員 　　奈良は自転車で行ったりするのが危険な道路が多いのかな？

Hさん 　　細い道とか脇道に、車、バイク、自転車、歩行者が、一気に走ったりす
　　るからそういう時にひかれそうになったり、溝に落ちそうになったり。自
　　転車専用道路みたいなのが奈良のどっかにあつたけど、地域全部に作って
　　くれたら安全になる。

木下委員 みんな、移動はけっこう自転車が多いのかな。
Hさん はい。



木下委員 学校は歩きだよね。けど、いろいろ動き回るときは自転車が多いのかな。中学生くらいになるとそうだね。行動圏が広がって。そういう時にけっこう奈良は自転車にとって危険な道が多い？

近藤委員 路線のバスが少ないっていう。あまりバスが使えない。
Hさん 自転車やったら買ったら無料で乗れるから。バスやったらお金がいちいちかかるから。そんなお小遣いない、あんまり。

木下委員 普段の生活で、ものを買ったりとか、友達と会ったりとか、自転車で足りてる？
Hさん 遠いところに行くのには電車も使うけど、近いところだったら、全て自転車です。

木下委員 さっきのフードコートっていうのに行くときは？
Hさん 自転車で。

木下委員 みんな友達と集まる時はどうやって連絡し合ってる？ケータイとか持ってんのかな。中学生だったらもう持っている？
Hさん メールとか。
木下委員 LINEとかやってるの？
Hさん はい。

木下委員 だから、タブレット授業とかはどうなの。使いこなせる？
Jさん 僕は持ってないんで。まだいらなかなって。
玉中補佐 スマホを持っている人は多い？
Jさん いや、ケータイは持っているけど、スマホはまだ半分くらい。
木下委員 ケータイは持っているんだ。まだあまり持ってないと思ってた。スマホとか使い方についてなんかルールとかはあるの？
Hさん 私の家では、2階では使ってはいけない。使うんだったら1階のリビン

グって決められてて。

木下委員 学校に持っていくことは？

Hさん 禁止です。

木下委員 そういう IT は、便利な面と面倒な面と。でも、さっきのタブレット授業って、授業はだんだんコンピューターとか IT とかを導入してやっていった方がいいと思う。ペーパーの教科書より。

Hさん 歴史とかやったら、次々と発見されていくことってあるじゃないですか。だから、紙やったら昔の古い情報を学んでいだけやけど、タブレットにしたら、今、最新の情報を学べるので、いいことかなって。

木下委員 だから、インドでこういう話があるんだけど、学校にも行ってない子どもたちにパソコンを入れたら、みんな自分で自由に調べて、世界ともつながって、英語も話したりとかそういうようなことがあって。学校ってまさに IT とかいろんな技術の可能性があるから、そういうのを先生たちが積極的に導入して、みんなが自由に学べるようになってるかな。そういう使えるコンピュータールームとか、クラスの中にパソコンやタブレットがあったりとか。そういうのはどうですか。

Hさん 英語とかは大きいテレビを使って、先生がパワーポイントを使って、このつづりはなんて読むでしょうとか。順番に1人ずつ発表していったりするんですけど、そういう IT 的なのはない。

木下委員 まあ、タブレットって言葉をどういう風に解釈したらいいか、ちょっと考えたんだけど。単に教科書を減らすだけなのか。もっといろんな可能性があるんだから、そういう情報やいろんなのにアクセスできるっていうのも子どもの権利条約なんかのどこにもあるんだけど。学校を良くするための自由なお金を持ち、環境を良くするという意見を言って、学校の環境を良くするようにできたらっていう小学生の案が出たんだけど、あの意見についてどう思いますか。中学校はそういう自由な予算とかはどうですか。

Hさん あの理科の授業で、先生に実験したいですっていったら、「今、学校はお金がないから、そんな実験器具を買うようなお金はまわってこないから無理や」って教科書だけで勉強させられたり。そういう勉強のことにお金を使ってももらえないのはあかんかなって思います。

木下委員 難しいんですかね。子どもたちの意見で学校が裁量するのは。そういうのはあんまりないんですか。

玉中補佐 そういう生徒たちの意見を吸い上げて予算にしていけるシステムはないかもしれない。

木下委員 そのへんがこの条例で変わったらいいいよね。あとなんか言いたいことありますか。ワークショップも5回やって感想はどうでした。

Jさん いろんな人と触れ合えて、いろんな考えが知れてよかったです。

Iさん 自分の今まで思ってたこととか自分の考えを言えたからよかったです。

- Hさん 意見とかを交換して、こういう考え方もあるんだなって学ばせてもらいました。
- Gさん 一人だけじゃ意見がちょっとしか出ないけど、みんなが話し合えばたくさん意見が出る。
- 木下委員 じゃあ、あと学生さんも感想なり、なにか。
- 須田さん 実際、教育の現場で働かせていただいている講師なんですけど、こうした中学2年生の子も一緒に授業したりしてるんで、今日は、リアルタイムに学校の意見をいろいろ聞けて、僕の授業にもどんどん活かしていきたいなと思いました。
- 木下委員 もっともだと思うようなことはありましたか。
- 須田さん はい。ごめんなさい、気をつけますっていうふうに思いました。ちゃんと活かしていけたらいいなと思います。
- 瀧本さん この子らの年代の時に僕はそんなこと思ってなかったやろなっていうふうに…なんかすごいちゃんとした意見をもっていてすごいなって思いました。

2 B班

(1) 前半

- 子ども条例検討委員：木下副委員長、近藤委員
- 事務局：寺田子ども未来部長、亀井いじめ対策生徒指導室長、高田学校教育課長補佐、玉中地域教育課長補佐
- サポーター：徳永さん、松田さん、車井さん
- 木下委員 まず、ワークショップを5回してみて感想はどうでしたか？
- Bさん 初めてのときは緊張したんですけど、2回目くらいからは緊張もだいたいはぐれてきて、とても楽しくできた。
- 木下委員 よかった。みんなお互い初めて会った人たち。中学生も小学生もいるからね。でもだんだんやってるうちに仲良くなれた。どうでしたか？
- Fさん 自分の意見だけでなく、いろんな人の意見とかも聞けたし、こんな意見もあるんだなっていう、全然考えてなかった意見もいろいろ聞けたので、楽しかったです。
- 木下委員 みんな楽しかった。よかったですね。それでは、いくつか共通して出てる意見で、大人は子どもが意見を言いやすい場をできるだけ作るとか、なんか自由に意見が言える場が欲しいとかありますが、そういう場ってというのは奈良の中にはないですか。今回、自由に意見が言える機会ってというのは初めて？

- Bさん 初めて。
- 木下委員 他にそういう場って奈良の中にある？
- 徳永さん 学校の中とかには？
- Eさん 生徒会。クラブ。
- Aさん 学級会。
- 木下委員 学級会では自由に言える？
- Aさん うん。だけど緊張する。
- 木下委員 だから、ああいう意見箱がクラスごとにあるとっていうわけね。同じ意見箱かなと思ったら、説明を聞いて違うんだってわかりました。一番最初に書いてあるのは、先生の意見を聞くというのだけれど、もうちょっと説明してくれる？ 普段クラスで先生はしゃべってるじゃない？ そうじゃなくてほかに何か必要なの？
- Bさん 嫌なこととかあったときに「あっそうか」って言って生徒たちだけ謝らせて終わるっていうことがあるんですけど、先生はそのことどう思っているのか知りたい。



- Cさん 先生が意見を書いて、先生たちで見たらよくわかるやん。
- 徳永さん どんなこと知りたい？
- Cさん 愚痴とか。
- 木下委員 もっと本音が聞きたいってことかな？ 先生も教室の中だったら、先生って肩書きがあるから。あんまり先生と本音で話し合う場ってない？
- どうですか。学校の先生？ または元先生とかどうですか？ あんまり生徒とは話し合わない？ 学生さんは教育学校ですか？
- 徳永さん 一応、教職を目指してます。心が痛くなります。
- 木下委員 そういう教育は受けてないのかな。なぜ先生の意見箱が必要かって聞いたら、先生は、生徒が言ったことをどう思っているかとか、愚痴とか、本音が聞きたいと言っているんですけど、あんまり学校の中で先生と本音を語りあう場がないんですかね？

亀井室長 目安箱ってというのはみんなの学校にはないのかな？
先生に対してとか、例えば、生徒会とかで何か要望するようなことを紙に書いて入れるようなものはないのかな。

Dさん あるの？

Fさん たぶんあれはどんな本を入れてほしいか書くだけ。

亀井室長 あと、直接話をする時間がないんやね。中学生は学校が終われば部活動に行ってしまうから。なかなか休み時間とか短いからね。話す時間はないと思うけど、放課後は特に部活動があって先生と1対1で話す時間がないのかな。小学生はどうやろ？中休みとか。

Cさん 外に遊びに行くから。

亀井室長 そういうときは、なかなか話ができない？

Cさん 先生は職員室に戻ったりとか。

徳永さん お昼ごはんとかは先生と一緒に食べるの？

Cさん 先生は自分の机の上で食べる。

徳永さん 中学校は？

Eさん お弁当を黒板の前で食べてる。

木下委員 先生が個別に放課後、生徒と遊ぶことはありますか？

Cさん たまに遊ぶ。

Aさん バンビのときとか。先生とサッカーで遊ぶ。

木下委員 学校のことが多いんだけど、学校以外でも子どもが意見を言いやすい場ってあるかな？例えば怒ったりとか悩んだりとか、みんなお父さんお母さんには言ってるかもしれないけど、地域の中にそんないろんなことを言える人っている？

B・Cさん いないよね。

木下委員 なるほどね。マサさん何か質問ありますか。

近藤委員 そうですね・・・やっぱり大人のこと信用できない感じなのかな？

Aさん 信用するときもある。

近藤委員 それはどういうときかな？例えば誰を信用することが多い？学校の先生とか親とか、身近に大人はいると思うけど。誰なら信頼できる？

Aさん 外の他人やったら信用せえへん。だってさ、なんかタバコとかいっぱい捨ててるから。信用したことない。

徳永さん 学校の先生は信頼できる？

Aさん できる。

近藤委員 お父さんやお母さんは？

Aさん できる。

近藤委員 みんなはどうですか？どの大人が信頼できる？

徳永さん 顧問の先生は？

Dさん できるときもあるし。えーってときもある。

近藤委員 みんなは？

Cさん 家族と塾の先生。他には学校の先生。

近藤委員 イメージとして、あんまり意見を聞いてくれない感じなのかな大人の人は。

Aさん 話せる場はある。話し室みたいなのところがあった。

木下委員 どんなところ？

Aさん いじめの対策とかで話す場なんですけど、けんかしたときに、そこで先生と一緒に話したり。

木下委員 学校の中？

Aさん 学校の中。

徳永さん そういうとこよく行く？

Aさん 行かん。だってさ、壁薄いからめっちゃ聞こえるねん。コラーとか。

車井さん 怒られてるんや。指導室みたいなのところかな？

近藤委員 怒るための部屋？話し合うっていうより・・・。

Aさん 怒るための部屋。

近藤委員 それは話し合いじゃないね。説教部屋。

木下委員 あと、難しい言葉ではなく、分かりやすい言葉を使ってほしい。そうだよ。サミーもときどき、小学生のみなさんに言ってることが伝わらない。もう少し分かりやすい言葉に言い換えないといけないけど、そういう訓練が足りない。大人はつい普段話してる言葉で言ってしまうから、大人が気がつかないこともあるかもしれない。そういうときみんな「それ何？」って言い返したりする？

A・B・Cさん する。

木下委員 そういうのをしていけば、だんだん大人も気がついてくるのかなって思うんだよね。例えば、サミーは千葉で同じようにみんなに集まってもらって、子どもたちにとって将来、いい千葉市にしようって考える場があったんだけど、中学生から、何でこういう場を作ってるの？って聞かれて、健全な子どもを育てるためって職員の方は答えたんだけど、健全って何？て聞かれたときに、職員の方はグッとつまっちゃって。大人も分かってないんですね。そういう言葉って行政の中にいっぱいありますよね。肝心なのは、この条例づくりで、条例の言葉にしていかなきゃならないんだけど、いろんな条例って奈良市の法律にあたるものなんだけど、みんな見たことあるかな？読んでわかるかな？

Aさん 分かんない。

木下委員 分かんないよね。

Aさん 漢字ばかりだし。

徳永さん めっちゃ長いし、どんだけ長いねん。



木下委員　そこだよ。難しい言葉でなく分かりやすい言葉を使ってほしいっていうのは。みんなも一緒に条例づくりに加わってもらってるんだから、子どもでも分かりやすい言葉の条例を作してほしいということかなと思ったんだけど、そういうことかな？

近藤委員　他の市や町の条例を見ていると、難しいですからね。僕も内容がよく分からないくらい。「子どもは自分の権利について自覚し、他人の権利を認め尊重するように努めなければなりません。」

木下委員　難しいよね。

近藤委員　ちょっと難しすぎますよね。

木下委員　権利っていう言葉もね。5回のワークショップの中で考えたことある？

子ども参加者　・・・。

木下委員　難しい言葉だもんね。普段使ってないし。そのあたりをもっと分かりやすい言葉に変えていきたい。それから、大人はタバコをポイ捨てしちゃいけないとか、子どもはいろいろ叱られるけど、大人もルールを守っていないとか、子どもはそういうところを見て大人に注意する権利もあるんですね。大人も子どもも対等だとか、上から目線でなく子ども目線でとか、そのあたりがみんな一番言いたいことなのかな。みんなが共通して言いたいことって何か？

近藤委員　どれが一番言いたい？

Cさん　学校は学校をよくするためのお金をもつこと。

Dさん　先生は私たちの提案を実現するために何をしたら教えてほしい。

近藤委員　説明が足りないわけね。

木下委員　例えばどんなことかな？

徳永さん　部活のお金のことを相談したって言ってたよね。

Dさん　友達とかに聞いたんですけど、やっぱりお金がないとかって言って逃げられるって。

木下委員　できなかつたときの理由はないのかな？

- Dさん 「できへんねん」の一点張り。「もうこれは決まってることやねん」で終わり。
- 近藤委員 他のみなさんはどうですか？何が一番言いたい？
- Bさん 大人は子どもに注意するだけでなく、大人もルールを守ってほしい。
- Aさん 遊び場。駅前にでっかいパチンコ屋があって、そこがスーパーとかになったら駅前やしさ。
- 近藤委員 どれが一番言いたい？
- Eさん 2人以上が納得した意見を先生がまともに受ける。
- 近藤委員 今までまともに受け取ってなかったわけだ。
- Eさん すぐに流されたりとか。
- Fさん 目安箱を作る。クラスで話し合いの場っていうのはたまにあるんですけど、やっぱり引っ込み思案な子とかやったらなかなか言えないから、自分で思ったことを紙に書いて気軽に話せるような場が欲しいなって。
- 木下委員 目安箱でやり取りしながら、でもみんなで話し合う必要があるよね。先生が取り上げてくれたらいいのかな。そのへんはどうか？まともに意見を受け取ってほしいということとつながるの？2人以上が納得した意見は、見た先生がまともに取り上げて、みんなでどうするかとか、何をしなきゃいけないとか話をするということにつながるということだね。
- 徳永さん 見たかどうか、先生がちゃんと取り上げてくれたかどうか知りたいんじゃないの？
- 木下委員 そうだね。書いただけなら2人以上納得した意見なのかわからないよね。ありがとうございました。
- 近藤委員 ありがとうございました。

(2) 後半

- 子ども条例検討委員：浜田委員長、原委員、都築委員
- 事務局：石原子ども未来部理事、山岡子ども未来部参事、中川子ども政策課長
- サポーター：徳永さん、松田さん、車井さん
- 原委員 全体的に学校のことが多いですね。大人は上から目線ではなくというのは、学校だけじゃなく家庭の中でも感じるかな？具体的に言うと親からってことになるんだけど。
- 松田さん 感じたことある？
- Eさん 自分が言ってること無視されてる気がする。
- 徳永さん 例えばどういうこと？
- Eさん 学校のこともあるし、自分がやりたいこととかできへんから。
- 原委員 そういう時ってどんな気持ち？

- Eさん 嫌な感じ。
- 原委員 そういう時って、ここをこうしてほしいとか、こうだったらいいなって思う？
- Eさん いろいろ。
- 浜田委員長 クラブ続けたいとか、この塾行きたいとか思ってもあっちにしたらっていう感じ？
- Eさん 最終的には大人が決める。
- 原委員 他のみなさんはどう？
- Aさん 行きたいとことかあっても、今やったら夏休みやから、宿題終わってからって言われる。
- Dさん 親と討論になったときに、なんでそんな言い方するんって言われて、こっちも何でそんなえらそうに言うんって言ったら、「えらいからや」って言われる。



- Fさん お母さんとけんかしたときに、お母さんとやったら1対1やから、普通に言えるんですけど、おばあちゃんが来たら2対1やから負けます。
- Bさん お母さんやったら、自分のこと考えてしてくれてるんやろなって身内やし思えるけど、先生とか上から目線で言うてくる人には、説明聞いてたけど分からへんからもう一回聞こうと思って言っても、「さっき言ったやろ」とか言われることがあるから嫌。
- 都築委員 子ども目線でとか、子どもの意見をちゃんと聞いてほしいとか、部活してるのは自分たちだから、自分たちの方がよくわかってるのにとか、自分たちの意見をあんまり聞いてもらえてないっていう意見が結構出てると思うんだけど、どういう理由でこういう意見が出てきたの？
- Fさん 更衣室が武道場なんですけど、女子の更衣室がなくて、カーテンでしきられていて狭くって、ぎゅうぎゅう詰めになるんです。
- 浜田委員長 新しい場所は作ってもらえないの？それは先生に言ってるんですか？
- Fさん 愚痴ってる。
- 浜田委員長 大事なことやのに。毎日の着替えやもんね。

都築委員 なかなか言いにくい？

Fさん はい。

都築委員 どういうふうにしたら、その意見を言いやすいかな？

Fさん 先生の方から何か意見はないかって聞かれたら多分すんなり言える。

都築委員 クラブやって何か困ったことや不便なことがないかっていうふうに聞いてもらったら言えるのかな？

原委員 今はそういうのはないの？

Fさん 先生からの注意みたいな感じっていうのはありますけど、聞いてもらえるっていうのは・・・。

原委員 一方通行なのね。もしそういう意見を聞くよって言う場があったら参加したいと思う？

Aさん うん。でもワークショップはお母さんにやりなさいって言われた。

都築委員 いっぱい良い意見言ってくれてドキッとするようなものもあったんだけど、例えば、どうせ子どもだからと頭ごなしに言うんじゃないで、子どもの考えをちゃんと聞いてほしいとか。それから、すごいなと思ったのは、解決できない理由をちゃんと行ってほしい。それは大人もそうだと思うのね。これはどういうふうな話からこの10箇条に出てきたのかな？

浜田委員長 解決できないことはちゃんと理由を言ってほしいっていうのはどういう理由からかな？

Bさん 理由を言わんと、あれもこれも無理やからって、先生とかやったらすぐにそれで済まそうとする。なんでって聞いてもそれはしゃーないねんとか言う。だから理由がなんで言えへんのかとか、なんでこれが解決できへんのかちゃんと言ってほしいなと思う。

原委員 今、言ったことなんだけど、物事を決めるまでのところで一緒に話し合いをするというか、そういうところに参加したいなと思ったことある？

Cさん 思う。

都築委員 先生が理由をちょっと説明してくれたら、それに対して自分も一緒に考えたいとか、そんな気持ちがあるのかな。

Cさん 言ってくれないと納得できない。

浜田委員長 これから作る条例ってよくわからないと思うんですけど、奈良の子どもの憲法みたいなものを作るんです。これも途中でどんなふうになりましたっていうのは、説明した方がいいですよ。これで終わっちゃったら、結局このおじちゃんたちも同じことやってたってなるから。

Aさん ワークショップって何回もあったん？

浜田委員長 去年、一度同じようなことやって・・・今年も5回やったやんか。それで一応今日で終わりなんだけど、みんなの意見を決めてこれから条例を作っていきます。

Aさん えっ、条例ってどうやって決めるん？

浜田委員長　　するどい質問やな。それが気になるやんな。難しいことをどうやって決めるのか。今日のみなさんの声をどっかに入れたいなっていうのがひとつと、それからアンケートしたりするのがひとつと、学校へ行かなくなった不登校の子とか虐待を受けている子からも意見聞いて、みなさんが絞ってくれたように、大人も20個くらいの意見にまとめようと思います。だから、みなさんが書いてくれた言葉はどっかに入れたいなどは思ってますけど、ただ出来上がったときに全然聞いてくれてないって思われたら困るので、途中でなんかやった方がいいかなと思ってます。

Aさん　　去年の意見って何？

浜田委員長　　去年の意見は、いろいろあった。競馬場造ってほしいとか。今日のように、大人はちゃんと意見を聞いてほしいとかね。だから、みんなが意見を言いやすいような条例は作りたいなって思ってるんだけど。

Aさん　　だいたいいつできるん？

浜田委員長　　来年。今、中2の子が中学校を卒業するまでには完成させたいなと思っています。みんなにしたら長いもんな。1学期だけでも充実してるもんな。できるだけ早く作ります。途中どこまでできてるか知りたい？

Aさん　　毎日知りたい。

浜田委員長　　毎日！？それは無理。それは理由を説明するから勘弁して。例えば、遊び場作りだったらここまで決まりましたよとか、いじめなどの相談はここまで決まりましたよとか。そのくらいだったらできると思います。

Aさん　　インターネットとかで掲載したらいいねん。

浜田委員長　　子どもに分かりやすい言葉でね。相談してみます。去年話し合った子どもたちのことは、今度の9月号のしみんだよりに2ページで出るんです。ここで言ったことは、奈良の子どもの決まり、条例を作るときも話し合いの場を作るようにしますし、できないことは理由をちゃんと説明します。じゃあ他に質問どうでしょう？

原委員　　学校についての意見はたくさん出るんですけど地域のことや家庭のことがあんまり出ていないので、そのあたりを聞きたいなと思うんですけど。例えば地域の大人から上から目線で言われたこととかもあるのかな？

Aさん　　ある。無理、無理って先生から。市役所からお金をもらっていてそれを使ってるんやけど、それでは無理っていうか、くれないからって。

浜田委員長　　あまり地域のおじちゃんやおばちゃんと接する機会はないの？家・学校・クラブ・塾みたいな？

都築委員　　地域のお祭りとかイベントとかには参加しないの？

Cさん　　家で見る。花火とかよく見る。

徳永さん　　屋台とかでてる夏祭りとか行かへん？

Cさん　　学校とか、子ども会とかそういうのしか行かへん。

浜田委員長　　子ども会は行くの？子どもみこしとか？

徳永さん　　そういうときに、おじちゃんとかおばちゃんとかとしゃべったりしないの？

Cさん　　おらへんからしゃべらへん。

Aさん　　おるけど。ちゃんと引っぱれーみたいな。

浜田委員長　　学校や塾以外で、おじちゃんやおばちゃんと接することある？

Bさん　　近所に自分の同年代のお母さんたちがいるんですけど、その人たちは自分のお母さんとか同年代の人としゃべってて、しゃべることってあまりないから。

浜田委員長　　つながることは少ないんですね。

原委員　　少ないですね。

浜田委員長　　他はどうですか？

Fさん　　学校とか行ってたら昼間とかは全然会わないし、そのあといろいろと、クラブから帰ってきて塾行かないといけないから、あまり話す機会がない。

Dさん　　私もあんまりないです。昔は子ども会とか、年2回くらいの何か大会とかあったりしたんですけど。最近はないです。

原委員　　その地域の大人から上から目線で言われたりする経験もあまりないの？

Dさん　　優しい人ばかり。ちっちゃいころから優しく接してもらってる。

浜田委員長　　あまり接点なさそうですね。

都築委員　　私は地域コーディネーターをやっていて、学校に行って子どもたちと遊んだり、いろんな企画をしたりしてるんだけど、あまりそういう人とも触れ合う機会はない？

B・Cさん　　来ることがない。そんなことやったことない。



徳永さん　　あったらやりたい？

B・Cさん　　やりたい。

Aさん　　なんか学校にスタンプラリーとか、1年生を迎える会とか卒業祝いとかその日だけみんなで遊ぶみたいな。

徳永さん　　それ学校の中だけ？外の人とはないの？

Aさん　　外の人とは何か交流会とか、昔の遊び交流会みたいなので教室に人が来

て駒回しのやり方とか、1年生やけど。

Cさん しめなわとか。去年やったら学校に卓球クラブで、1、2回しか来なかったけど。

浜田委員長 学校によって違うのかな？

都築委員 それは1、2回来て終わっちゃったってこと？

Cさん 10回くらい来るはずやったのに。

都築委員 来るはずの人が来なかったんやね。そういうのは嫌だね。

Cさん 教えてもらうはずが教えてもらってない。

原委員 大人のマナーが悪いっていう意見があるけど、これは一般的に感じることかな？身近な近所のおじさんやおばさんじゃなくて、一般的に大人のマナーが悪いって事かな？

Aさん 空き地とか草のあるところに、タバコの火がついたまま置いとくとか、僕のマンションの坂道に火がついたまま置いたりとかして、登校中に！まだ火がついてるみたいなの。よけたりとかしてるんやけど踏むときもある。

浜田委員長 じゃあ大人も子どもも両方ルール守ってほしいっていうことやね。

大人の方がルールを守らないことが多い？

Aさん うん。赤信号やのに、もう渡っちゃえみたいなの。

都築委員 地域の公民館に意見箱、目安箱を置いてほしいって書いているのは1班だけだったんだけど、地域に置くっていうのはどういいう話から出てきた？

Cさん クラスにもあった方がいいけど、無いから作ってほしい。他にも先生たちだけのとか。

Aさん 奈良県全体の公民館にひとつずつ置いて、1年で集めて意見とかを使っていく。

都築委員 それは子ども専用？

Aさん 大人も子どもも入れて、市で集めて解決したらいいと思う。

原委員 解決するときに、自分たちも一緒になって解決しようと思う？それとも大人だけで？

Aさん 子どもも。

原委員 子どもも大人も一緒にとということね。

浜田委員長 そういう目安箱に入れられた意見は、どういう意見があったか子どもも知りたいし、子どもも解決に関わりたいたいっていうことかな？サポーターの方、何か補足はないですか？

松田さん 子どもたちは、大人がやっていることが全然見えてない。学校現場でもそうですけど、どうやって決めてるの？誰が決めてるの？誰が決定権を持つてるの？とかまったく分からない状況なので、それをちゃんと示してほしいし、どういう努力をしてくれたのか、ほんまに考えてくれてんのか、単純につぶしてしまったのかっていうのを子どもたちは知りたいと考えてます。大人が決めるんじゃなくて、私たちも参加をさせてほしいという意

見がすごく多かったので。

浜田委員長 大事な意見やんな。

徳永さん 先生ががんばった証拠を見せてほしいっていうのは、それに至るまでに先生のことが全く信用できへんっていうのがあって、じゃあどうやったら信頼できるっていう話になって、こういうことしたら信頼できるし、できなくても自分たちは納得できるよねっていう流れから、ああいう意見が出てます。

浜田委員長 5回のワークショップが終わってみて、委員に言いたいことありますか。

車井さん 奈良市を子どもにやさしいまちにするための条例を作ってると思うんですけど、子どもたちの中では学校がメインになって、学校への意見がすごく多くて、それは先生に対しての意見もそうですし、学校環境っていうのは子どもたちも気になってると思うので、子どもに見えやすいところから考えてもらって、そこから大きく地域とかに広げてもらったらいいかなと思いました。

浜田委員長 もう一回先ほどの形に戻って、全体で言いたいことあったら聞きたいなと思います。

3 全体

浜田委員長 それではみなさんの発表や提案を聞かせていただいて、25分ずつそれぞれについての質問や意見交換をさせてもらいました。これを受けて私たちが条例というのを作っていくんですけども、先ほど言われたのは、学校もそうだし、家もそうだし、ましてや条例は誰がどんなふうに決めてやっているのか分からないということで、一気に見せるのではなくて途中どんなふうに僕らのことが活かされたか、聞かせてくださいっていうのが出ました。今日もこれから大人が話をするんですけど、あと12、3分なんですけど、ぜひこれから条例作るのに、こんなに市役所の方がいらっしゃる中で言えることはないので、奈良の子どもたちの、子どもにやさしいまちを作る憲法みたいな感じなんだけど、みなさん言いたいことがあったら、どんどん言ってください。サポーターの方でもいいですし、こんな貴重な機会はないし、もしかしたらその言葉がしみんだよりに出るかもしれません。

秘密は守るので、この際、言いたいなってことがあったら聞かせて。全体で。まだ整理できなくてもいいです。これだけは繰り返しになってもいいし。サポーターの方でもいいですよ。どうぞ。

徳永さん サポーターの徳永と言います。僕の意見っていうより、最後の第5回的时候に子どもが言ったことなんですけど、観察シートにも書かせていただいたんですが、大切なのもう一度伝えたいんですけど、今やってる子って2年生が多いんですよね、次回もワークショップ来たい？って聞いたときに、来たいって言う子が本当に多くて、僕たちはすごく嬉しかったんですけど、でも夏になったら受験勉強で来れへんよなあって意見があって、ほんとに2年生は夏、次は受験勉強だから来れないから、春休みにやってくれたら来れるのになっていう意見があったので、本当にそのとおりだなって思うのでこの場を借りてお伝えしたいです。

浜田委員長 ありがとうございます。先ほど条例はいつできるのって聞かれて、中学卒業するころって言ったら、そんなに遠いのって言われたので、子どもたちからすると、私たちと時間の感覚は違いますし、受験の壁ってありますからね。じゃあ、もう一度やりとりするとしたら、春休みにやってほしいってことね。わかりました。わかりましたっていうか受け止めます。ほかにはどうでしょうか。

木下委員 中学2年生の夏が終わると、もう受験に入る？

徳永さん いや、1年後にやるとしたら、もう3年生。

木下委員 ああ、1年後にやるとしたらね。

浜田委員長 遠慮しなくていいよ。言葉で言いにくかったら、わーでもいいし、えーでもいいし。

Iさん タバコのことについてで、校内でタバコを吸っている先生がちょっと常識をわかってないのかなあって。

浜田委員長 わかりました。その方にかわってごめんなさい。大人をよく見てると言うことですね。なるほど。あとはどうですか？

Aさん これって録音されてる？

浜田委員長 みなさんの声をちゃんと条例に活かしたいので、録音させてもらってます。ただ、文字に起こすときには必ず確認します。約束しますからね。

木下委員 これは、誰がどう言ったっていうのは大丈夫。さっきの先生のも大丈夫。



浜田委員長 これから条例を作っていくときに大切なことっていうのは何かないでしょうか。大人にいろいろ問題があるのは確かだと思うんだけど、一緒に作っていくときに注意してほしいっていうのは何かないですか？

Hさん 子ども条例を作るときに、大人が、こうしたら子どもは嬉しいんじゃないかではなくて、子ども目線になって、考えてもらえたらいいものができると思います。

浜田委員長 じゃあ、上から目線で条例作らないでほしいという意味なのかな？

Hさん はい。

木下委員 子どもに媚びへつらうみたいなこと？

Hさん え？

木下委員 難しい言葉ではなく分かりやすい言葉を使ってほしい。これは重要なことだね。でも、今つい言ってしまったように、大人が使っている言葉で、気がつかないで使ってしまうことがあるので条例も案ができたときに、みんなもこれは分からない難しい言葉だってチェックが必要だと思うんだけど、春とかに1回でやるのではなく、その間にもそういうのは必要かと思うんだけど、そういうのに付き合ってくれますかね？ こういう案がありますけど、これはおかしいって朱入れてくれるとかそんなことお願いしたらやってくれますかね？

Hさん ぜひやりたいと思います。

浜田委員長 子ども目線っていうのは結局、大人がこうしてやろうとかこうしたら喜

ぶだろうという条例ではなくて、子どもが今生きているときにどうか、そこを大事にしながら作ってほしいということかな。

- Hさん そうです。
- 浜田委員長 他はどうでしょうか。うなずいている方もいらっしゃいますけど。どんなふうに分められているか分からないから、ちゃんと説明してほしいとか。
- Aさん もし条例ができなかったときはどうするのか？
- 浜田委員長 できるように努力しますが、私たちが皆さんの意見をもとに、原案を市役所の人と作るんですが、最終的には市のいろんな方々のご意見を聞く必要があります。それから、他のきまりと共通してるかどうか決めないといけないし、最後は市議会議員さんたちによって決められるんですね。その途中でそれぞれストップかかったときは、ちゃんと説明します。がんばって作ることは絶対約束で、努力しますということと、途中で、もしできなくなったときは、そのできなくなった理由を説明します。
- 木下委員 ヨーロッパなんかでは、みなさんと一緒に条例を作って、さっきのように私たちは努力してみんなが分かりやすい言葉で、その間でもやりとりして、みなさんも自分たちが条例作っていると感じられるように。自分たちの条例が最後にね、反対の意見が出て、もし、条例ができそうになかったら、ヨーロッパでは子どもたちがみんな役所に押しかけて、議会の議員に押しかけて・・・。
- 浜田委員長 市役所のルールがありますので。
- 木下委員 そういうことはわかるけど、ヨーロッパでは子どもたちも、ロビー活動っていうんだけど、そういうのをやったりするんです。そういうのも認められているんです。日本ではそういうのはあまり例がないというか。
- でもそういうこともみなさんどうですか？したいとなったら、一緒に声あげてくれますか？私たちも声あげるから。
- Aさん 大人がやってくれるんやったら、ちょっとそのへんは・・・。
- 浜田委員長 大人がやってくれるってさ、一緒に決めたいってみなさんが言ってんから、まかせんといてよ。頼むわ。一緒にやろう。何かご意見ありますか。



- Fさん 目安箱を学校に設置したらいいっていう意見で、クラスのみんなで相談とかしたときに、自分の意見をしっかり言えなかった子が、目安箱に自分の意見を入れて言えるようにした方がいいと思います。
- 浜田委員長 なかなか自分の意見が言いにくいってところがあるってことね。
- Dさん 子ども条例ができたときなんですけど、今いじめられている子とか不登校になっている子は来やすくなりますか？
- 浜田委員長 終りかけにそんなこと・・・。
- 木下委員 いやいやいや、そのための条例作りをしてるんで。どうですか委員長さん。
- 浜田委員長 みんなが、平等に扱ってほしいとか、目安箱がどの班も出たっていうのは、多分いじめとか学校行きにくくなった子とかが背景にあるんだろうって感じました。だから、今、言ってくれたので、ちゃんと受け止めます。
- 聞き取りの中でも、不登校の子どもたちに聞いたときも、奈良はいっぺん学校行かなくなると、すごく呼吸しにくいって言った人がいたので、そこは、学校に行きたくなくなった人に条例でやっぱり行きやすいようにしたいと思います。
- 長時間、ワークショップに参加して下さって、それと今日の意見交換、言いにくいことも含めて言って下さってありがとう。
- 木下委員 あとちょっと最後にこれだけは言っておいた方がいいと思うんだけど、みなさんの8箇条や10箇条や14箇条の言葉の中に、最後に条例の中に具体的に、たとえば目安箱っていう言葉を条例に入れるよりは、目安箱が位置づくような形での書き方になると思う。遊び場や駐輪場を増やすとか、道路をもっと安全にとかできるような、役所の事業っていうんだけど、個々にやっていけるようにいろんなことが整理されたり、改善されたりする基本の法律の言葉になるので、みなさんの言葉が具体的に出てくるわけではないので、駐輪場とかも法が包み込んでできるような文言にしていくということになると思います。その過程を、みなさんにチェックしてもらって朱を入れてほしいと思います。いいですか、そういう協力をお願いしたいと思います。
- 浜田委員長 一言で言うと、どんなふうに活かされたかを分かりやすく、春ごろに説明させてもらいます。



